

113

明治二十九年十月

改正神道教規大全

東京 發行社



明治二十九年十月



改正 神道教規大全

東京 發行 社





教規大全目次

實行教々規

實行教信徒心得

神道實行教教師檢定條規

神道修成派教規

神道修成派教規十三條細則

黑住教々規

教規 懲戒規約例

更 正 黑住教々規細則教務條例

全教務規約

全附錄

全雜則

一 丁

七 丁

十三 丁

二十三 丁

四十七 丁

五十七 丁

六十八 丁

七十四 丁

七十七 丁

八十三 丁

九十三 丁



黑任教々師檢定條規	百四十三丁
神道教規	百五十五丁
神道教師檢定條規	百六十五丁
大成教々規	百七十五丁
大成教々規目次	百七十七丁
大成教教師檢定條規	百九十五丁
神習教々規	二百五丁
附錄 神習教教約	二百二十五丁
教師檢定規則	二百三十九丁
教師檢定規則細則	二百五十一丁
神道提要二十八述題	二百五十四丁
附錄 神習教教約	二百五十八丁

神宮教教規	二百八十五丁
神宮教教師檢定條規	三百七丁
大社教々規	三百十七丁
大社教々導職檢定條規	三百二十七丁
神道扶桑教々規	三百二十九丁
扶桑教教師檢定條規	三百五十一丁
神道禊瀆教規	三百七十三丁
禊教々師檢定條規	三百六十一丁

目次終



持18  
114

實任教々規

第一章 總規

第一條 惟神ノ大道ヲ宣揚スル事

天祖參神ヲ主祭ス  
賢所ヲ通拜ス

皇國ノ靈鎮ル宮嶽ヲ崇祀シテ無窮ノ國躰ヲ祈請ス

惟神ノ靈倫ヲ章明ス

第二條 皇國ノ禮典ヲ修明スル事

神事ハ歷朝ノ儀範ニ則リ執行ス

冠婚葬祭等ノ禮式ヲ執行ス

第三條 國有ノ本教ヲ擴充スル事

幽顯ヲ貫通シテ死生ヲ申明ス

實行ヲ專踐シテ虛文ノ弊ヲ矯正ス

業務ヲ獎勵シテ獨立ノ思念ヲ鼓舞ス

親睦ヲ主張シテ邦家ノ安寧ヲ希圖ス

實行教々規



第二章 名稱

第四條 當教本部ヲ東京ニ置キ實行教本館ト稱スル事

一 本教一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 一國一部信徒ノ多少ニ據リ教會所或ハ説教所等ヲ置ク事

一 實行教何々分局ト稱ス

一 該部ノ教務ヲ擔當ス

第三章 役員名稱

第六條 大教正以下ノ教師ヲ總轄スルモノヲ管長ト稱スル事

第七條 教師ヲ教正講義訓導教導職試補ト稱スル事

一 教正ヲ正權大中小ノ六級ニ分ツ

一 講義ヲ正權大中小ノ六級ニ分ツ

一 訓導ヲ正權二級ニ分ツ

一 教導職試補

第八條 教務一切ノ事務ヲ辦理スルモノヲ幹事教長ト稱スル事

第四章 職制

第九條 管長ハ教務一切ヲ總理シテ上下ニ對シ其器ニ任スル事

一 神事道儀教法ヲ傳授ス

一 教師以下ヲ任免進退ス

一 教會講社ノ名稱ヲ許可ス

第十條 幹事ハ東京本部ニ在勤シテ教務ヲ擔當スル事

一 管長ヲ輔佐シテ庶務ヲ監督ス

一 管長事故アルハ代理ヲ勤ム

第十一條 教長ハ一國一部ノ教務ヲ統括スル事

一 管長ヲ輔翼シテ教師ヲ獎勵シ布教ヲ專トス

一 教師ノ勤惰ヲ觀察シ平素德行アルモノヲ布教ニ功勞アルモノ等ヲ管長ヘ具申ス

一 信徒後來ノ見込アル者ヲ擢拔シテ管長ヘ具申ス

第十二條 教師ハ神事布教ノ諸務ヲ分掌スル事

一 神事ヲ修メ信徒ヲ教導ス

一 冠婚葬祭等ノ諸式ヲ奉行ス

一 試補ハ教師ニ隨ヒ教導ヲ補助ス

第五章 管長

第十三條 管長ハ一姓氏相續ヲ以テ認可ヲ願フベキ事



- 一 時宜ニ寄り副管長ヲ置テ管長ノ補助トナスベキ事
- 第十四條 幹事ハ管長ノ特撰タル事
  - 一 品行方正事理ニ通曉スルモノ
- 第十五條 教長ハ管長ノ特撰或ハ部内ノ公撰ニ定ムル事
  - 一 講義以上ニアルモノ
  - 一 徳望アリテ信徒ヲ統ルニ足ルモノ
- 第十六條 教師ハ試験法或ハ管長ノ特撰ヲ以テ進退スル事
  - 一 教長ノ具申ニ係ルモノ
  - 一 實行炳ク事理ニ通スルモノ
  - 一 試補ハ丁年前ト雖モ向來望アルモノハ之ヲ撰拔ス
- 第六章 公 部
- 第十七條 祠宇教會所説教所等ヲ設置スル事
  - 一 教會所説教所等新築ハ従前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出允許ヲ受其移轉廢合ハ届出ヘシ
  - 一 祠宇ヲ設置スルルハ管轄廳へ請願シテ許可ヲ乞フベシ
- 第七章 服 制

- 第十八條 教導職ノ禮服ヲ祭服狩衣直垂淨衣トスル事
  - 一 教正以上祭服狩衣直垂淨衣
  - 一 正權大講義狩衣直垂淨衣
  - 一 試補直垂
- 但絹ヲ用ヒズ
- 第十九條 華士族平民自家神祭及神式葬儀ノ節戸主ハ勿論家族親屬總テ祭儀ニ關スルモノ狩衣直垂淨衣等ヲ着シ昇夫等ハ白丁ヲ用フル事
- 第八章 理 葬
- 第二十條 葬儀ヲ委託スル者アレバ試補以上成規ノ如ク殷勤鄭重ニ執行シ眞實ヲ主トシ虚飾ヲ省クベキ事
  - 一 葬儀取扱ハ教職々務上ノ本分ナレバ自己ノ父母又ハ妻子等ノ葬儀ニ至テハ必ス他人へ依頼スヘシ
- 第九章 懲 戒
- 第二十一條 教職ノ者犯罪等ノ事故有テ免職ノモノ本人悔悟ノ事實及保證書差出スルハ其時宜ニ由テ宥免スベキ事
- 第十章 雜 則



第廿二條 教導授産ノ方法ヲ設世ノ公益ヲ謀ル事

一 山海ノ遺利ヲ興シ農漁ノ裨補ヲ謀ル

一 衛生ノ方法ヲ講習シ及行旅ノ便ヲ謀ル

第廿三條 本教ニ入ル者ハ左ノ規約ヲ遵守スヘキ事

一 別紙第一號ノ誓言書ヲ差出ス

一 誓言書ト引換ニ第二號ノ會員證ヲ與フ

一 第三號ノ如キ門標ヲ掲ケシム

一 第四號ノ心得書ヲ授與ス

右之條款ヲ以テ實行教ノ教規トス猶實施ノ上支悟アレハ重テ剛補許可ヲ請フ可シ

明治十八年四月

實行教管長

追加

柴田花守

第廿四條

一 學寮ヲ置キ皇漢洋ノ學ヲ授ケ

但シ學寮ヲ分チ普通科教師科ノ二トシ普通科ハ學齡兒童就學時間入學ヲ許

ナス教師科ハ終身教職ニ專從スヘキ誓約ヲ入シム

明治二十六年四月一日認可

### 實行教信徒心得

#### 第一號 誓 言

第一條

一 不二山ハ地球ノ精神ナルヲ信スル事

第二條

一 皇統一系國脈無窮ヲ祈ル事

第三條

一 上下親睦家業ヲ勵ム事

右誓テ遵守候也

年 月 日

縣 府

國

郡宿町村番地居住

姓 名 印

實行教信徒心得



第三號

實 行 教 會 員 證	何 府 管 下 國 郡 村 番 地 居 住	姓 名	明 治 年 月 日
----------------------------	---	--------	-----------------------



川 々

實 行 教 會 員

實 行 教  
會 員 證

一 尺

烙 印

第四號 第一條

一 本教ニ信入スルモノハ誓言書ノ旨ヲ躰シ記名捺印管長ニ呈シ印鑑ヲ申請クベキ事

第二條

一 他出旅行必印鑑ヲ携帯シ互ニ相示シ隔意ナク交際スベキ事

第三條

一 左ノ木標ヲ門戸ニ掲グベキ事

三號ニ圖ヲ出ス事

第四條

一 毎朝拜式ヲ欠ク可カラザルハ勿論元始祭祀元節天長節春秋二季ノ皇靈祭祈年祭新春祭等ヲ始又毎月三十七日ヲ期シ御恩禮ト唱ヘ會同シ各説教道話ヲ勤メ互ニ實行ヲ獎勵督促スベキ事

第五條

一 官嶽ハ國家鎮護ノ靈山大地ノ精神ナルヲ確信シ無窮ノ國牀ヲ祈ルベキ事  
附 毎年八月二日登嶽シテ寶祚ノ無窮國家ノ安寧ヲ祈ルヘシ

第六條



一 言フニ易ク行フニ難キハ人世ノ通患ニ付專ラ意ヲ爰ニ注キ言ヲ後ニシ行ヒテ先ニシ輕薄疎暴懶惰放逸等名實齟齬ノ誹ヲ招キ教名ヲ汚ス可カラサル事

第七條

一 國ヲ愛スルハ家ヲ愛スルニ因リ家ヲ愛スルハ其身ヲ愛スルニ出テ則父母ノ遺軀ヲ敬愛スルノ理ニ原ク依テ先其身ヲ愛シ其家ヲ愛シ大成シテ國ヲ愛スルノ志念忠魂ヲ確立シ專外侮ヲ禦クハ本教ノ主眼タルベキ事

第八條

一 故無ク人ノ救助ヲ受ルハ大ニ一身ノ廉耻ニ關シ人トシテ有ル可ラザル儀ニ付勤行踴勉自ラ助ケ寧ロ他人ヲ救助スルモ人ノ救助ヲ欲スル等ノ劣心ヲ抱ク可カラザル事

第九條

一 一國ノ富ハ二人ノ儉勤ヨリ始ル本教ニ入ル者宜シク此意ヲ体認シ奮起シテ業務ヲ勉強スベキ事

第十條

一 恩ヲ知ルヲ人ト言ヒ知ラサルヲ禽獸ト言フ知テ報イサレハ知ラサルニ均シ依テ天恩國恩父母祖先ノ恩ハ勿論總テ恩誼ニ報酬セサルモノ此教會ニ有ル可カ

ラサル事

第十一條

葬儀ハ終身ノ大典靈魂歸幽ノ要所ニ付鄭重ニ行フ可キ事ナレトモ奢倭華美ニ流レサル様節儉ヲ旨トシテ執行スヘキ事



神道實行教教師檢定條規

本年五月三十日訓令第九號ニ依リ別冊之通  
教師檢定條規規定致度候間御認可相成度此  
段奉願候也

明治二十八年九月十三日

神道實行教管長 柴田禮一 印

內務大臣子爵野村靖殿



(朱書)

割印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十一月十五日

内務大臣子爵野村 靖印

神道實行教教師檢定條規

第一章 檢定

第一條 教規第三章第七條檢定ニ規定シタル教師ノ分限及等級ハ檢定條規ニ依リテ施行スル檢定ニ合格シタルモノニアラサレハ之ヲ授與セス

第二條 左ノ諸項ノ一ニ該當スヘキモノハ教師タルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白痴盲聾瘖啞ノモノ
  - 二 年齢二十歳未滿ノモノ
  - 三 品行不正ノモノ
  - 四 重罪又ハ定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタルモノ
  - 五 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サルモノ若クハ復權ヲ得テ一箇年ヲ經過セサルモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ若クハ辨償ヲ終ヘテ一箇年ヲ經過セサルモノ
  - 六 本教及他神道教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ悔悟ノ實ヲ表セサルモノ若クハ悔悟ノ實ヲ表シ二箇年ヲ經過セサルモノ
- 第三條 教師檢定ハ教規第五章第十六條ニ依リ左ノ二種ニ別ツ



第一種 試驗  
第二種 特 撰

第四條 第一種ノ檢定ハ第二章第十條乃至第十五條ノ場合ニ檢定委員長檢定委員及立會人試驗員同章第六條乃至第九條又ハ第十六條乃至第二十條ノ手續方法ニ依リ學業上ノ試驗ヲ施行スルモノトス

第五條 第二種ノ檢定ハ第三章第二十一條乃至第二十五條ノ場合ニ限リ檢定委員長及檢定委員ノ銜ヲ經テ試驗ニ依ラス管長之ヲ補命シ又ハ其銜ヲ換タスシテ管長之ヲ特撰ス

第二章 試驗

第六條 試驗ヲ別チテ教義學科普通學科ノ二トス乃チ別紙表ノ如シ

第七條 試驗ハ十五級ヲ七種ニ別チ試験補ヲ一種トシ他正權ヲ一種中ニ包含セシム

第八條 三種以上ヲ高等試験トシ四種以下ヲ尋常試験トス

第九條 高等試験ハ本館ニ於テ尋常試験ハ各分局各教會所ニ於テ臨時之ヲ施行ス但本條以外ノ場所ニ於テ試験施行ノ必要ヲ生スル時ハ管長ハ檢定委員長ヲ其地方ニ派遣シ檢定試験ヲ行ハシム

第十條 新補試験ハ十三級以下トス

但第十一條乃至第十三條ノ場合ハ此限ニアラス

第十一條 官國幣社宮司若クハ權宮司タリシモノハ教義學科試験ヲ免除シ七級以下、其補宜主典タリシモノ若クハ滿十年府縣社以下神職タリシモノハ教義學科試験ヲ免除シ十三級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

第十二條 神宮皇學館本科卒業生又ハ皇典講究所學正證書ヲ有スルモノハ教義學科試験ト普通學科試験ノ全部若クハ一部ヲ免除シ八級以下、其專科卒業生又ハ其五等司業以上ノモノハ教義學科試験ヲ免除シ十三級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

第十三條 高等官タリシモノ若クハ其資格ヲ有スルモノハ普通學科試験ヲ免除シ七級以下、判任官タリシモノ若クハ其資格ヲ有スルモノハ普通學科試験ヲ免除シ十三級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

第十四條 昇級試験ハ現級滿二年以上勤績スルモノ、外受験ヲ許サス

第十五條 六級十二級十四級ハ越級試験ヲ許サス

第十六條 試験問題ハ試験施行前豫メ管長ノ裁決ヲ經ヘシ

第十七條 高等試験ハ檢定委員長之ヲ審案シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス

第十八條 尋常試験ハ檢定委員之ヲ審案シ其口述作為ニ係ル得點ト筆答ニ關スル書類トヲ檢定委員長ニ送附シ檢定委員長ハ筆答書類ヲ審案シ其得點ト檢定委員ノ審



案シタル口述作爲ノ得點トテ合算シ其成績ヲ管長ニ報告スルモノトス

第十九條 各學科一百點ヲ滿點トシ教養學科ハ平均六十點以上、普通學科ハ平均五十點以上ヲ合格者トシ一科若四十點未滿ナル時ハ不合格者トス乃チ八十點以上ヲ甲トシ七十九點以下ヲ乙トス甲ヲ正ニ配シ乙ヲ權ニ配ス

第二十條 檢定試驗ニ關スル一切ノ書類ハ本館及各分局各教會所ニ保存ス

第三章 特 撰

第二十一條 一級二級ノ教師ハ一級七名二級二十名ノ定員ヲ置キ其缺員ヲ生スル場合ハ試驗ニ依ラス管長之ヲ輔命ス

第二十二條 左項ノ一ニ該當スヘキ教師ハ其七級ヨリ六級、十二級ヨリ十二級、十五級ヨリ十四級ニ昇級スル場合ヲ除クノ外試驗ニ依ラス一級ヲ進ムルコトアルヘシ

一 布教使ノ海外ニ於テ滿二年以上勤續スルモノ

二 絶島蠻荒ノ開教ニ從事スル教師ノ滿二年以上勤續スルモノ

三 現級滿三年以上勤續スル本館各分局庶務以上ノモノ

四 現級滿四年以上本教ニ勤續シ其行徳顯著ナルモノ

五 教養ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタルモノ

第二十三條 本教教學寮卒業生ハ試驗ニ依ラス八級以下ノ教師ニ補スルモノトス

但優等生ニ限リ七級教師ニ補スルコトアルヘシ

第二十四條 本教教學寮ノ學科程度ト同等以上ノ他神道教派學校卒業生ハ其教校ノ卒業證書ヲ有スルモノニ限リ試驗ニ依ラス本教教學寮卒業生ヨリ一級以下ノ教師ニ補スルモノトス

第二十五條 復職ノモノ又ハ他神道教派ヨリ轉屬ノモノ又ハ明治十七年八月十一日以前教導職タリシモノハ試驗ニ依ラス其原級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第四章 委 員

第二十六條 本館ニ檢定委員長一名各分局各教會所ニ檢定委員三名又タ本館分局教會所ニ試驗員各々若干名ヲ置ク

第二十七條 檢定委員長ハ二級以上ノ教師、檢定委員ハ六級以上ノ教師ニ就テ管長之ヲ命ス

第二十八條 試驗員ハ檢定委員長又ハ檢定委員ノ擧舉ニ依リ管長之ヲ命ス

第二十九條 檢定委員長、檢定委員ハ管長ノ監督ヲ受ケ檢定試驗施行以內ノ事務ヲ處理判決ス

第三十條 試驗員ハ檢定委員長又ハ檢定委員ノ監督ヲ受ケ試驗ノ一部ヲ擔當ス

第五章 立 會 人



普通學科												教義學科				學科等級	
數學	理科	地理	宗教	哲學	歷史		漢文	國文		法制	說教	作文	作業	教典			
答筆	答筆	答筆	答筆	答筆	答筆	述口	述口	答筆	述口	答筆	述口	答筆	行爲答筆	述口			
			比較宗教	近世哲學			周易	萬葉集	出雲風土記	三延今 代喜義 格式解		人倫道德ノ要旨	漢物宣 文語命 林林林	鎮魂式	六國史	四級	三級
			比較宗教	古代哲學		日本政紀	近思錄	源氏物語	播磨風土記	法延今 喜義 至要抄	職原抄	人倫道德ノ要旨	公物宣 文語命 体体体	禊齋式	六國史	六級	五級
筆算	生理		佛教ノ大意 基督教ノ大意	心理學	増鏡水鏡	東鑑	論語	枕草子	あゆひ抄	皇室典範	禁秘抄	立教ノ要旨	公祝文 体詞	誕生式	古事記 日本書紀	八級	七級
算筆	物理			論理學	鏡水鏡	鑑讀史餘論	孟子	徒然草	かさし抄	制度通	公事根原	立教ノ要旨	祝詞	祓除式	古事記 祝詞式	十級	九級
算筆	物理	地文學			大鏡	神皇正統紀	中庸	土佐日記	明倫歌集	制度通		立教ノ要旨	祝詞	葬祭式	古參古 道鏡語 或應拾 問草遣	十二級	十一級
算珠		萬國地理			萬國歷史		大學	詞の八衢	玉鋒百首			五條ノ御醫文 憲法發布御告文 教育ノ勅語	祝詞	葬祭略式	本開大 教化古 大古辭 基徵考	十四級	十三級
算珠		日本地理			日本歷史		孝經	假名真名鏡				三條ノ教憲	往復文跡	御恩禮式 教諭摘奏	四御一 民恩行 教の一 諭卷旨		十五級

第三十一條 各委員ノ檢定試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監査スル爲メ管長ハ六級以上ノ教師ニ就テ臨時立會人ヲ命ス

第三十二條 立會人ハ試験ニ臨監シ試験終了ノ後其情況ヲ具シシテ直接ニ管長ニ報告スルモノトス

第六章 懲戒

第三十三條 檢定委員長檢定委員試驗員立會人及本館各分局教會所ノ役員其他教師ニシテ試験問題ヲ受驗者ニ漏洩又ハ密示シタルモノハ其情狀ニ依リ委員及役員教師ニアリテハ免職若シクハ降級ニ處シ試驗員ニアリテハ解雇ヲ命シ受驗者ニアリテハ其試験ヲ無効トス

第三十四條 檢定委員長以下不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ情況ニ付虛偽ノ報告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル

第七章 附則

第三十五條 教規其他ノ規則ニ依リ從前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其職ニアルコトヲ得

第三十六條 第三章第二十三條第二十四條ノ場合ハ退テ教學寮設置ノ上施行ス

第三十七條 教令及其他ノ規則ニシテ此條規ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス



第三十八條 此條規ハ明治二十八年十月一日ヨリ施行ス



### 神道修成派教規

本派ノ儀明治九年十月別派特立御許可ニ付教規ヲ定メ御届ニ及ヒ爾後教務筋ハ御許可ヲ受ケ或ハ届濟ニテ履行候處十七年八月十九號御布達ニ依リ更ニ教規ヲ定ムル左ノ如シ

#### 第一條

本派ノ主義ハ道ニ在リ道ノ大原ハ天神ニ出ツ即チ天之御中主神高皇產靈神皇產靈神ノ三神是ナリ夫レ人身血氣ヲ父母ニ受ルト雖モ其主トナル心魂ハ此三柱ノ天神ヨリ受ケザルハナシ乃チ天神ト同體ナル至善ノ心魂ニシテ一身ノ根本ナリ此貴重ノ心魂ヲ愛養保存セシムル爲ニ本派ノ教ヲ立ル所ナリ

#### 第二條

神典ニ曰ク天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱神修理固成是多陀用幣流之國ト之ヲ活用スレバ心魂ヲ正クスルヨリ修身齊家治國平天下及ビ我邦ノ光ヲ輝スモ皆修理固成ノ旨ニ非ルハナシ而シテ心魂ヲ練磨スルヲ主眼トス何トナレバ心魂清明ナレバ萬事成ラサルハナシ故ニ修理固成ノ四字實ニ神道ノ大本ニシテ須臾モ離ルベカラサルノ要旨ナリ凡ソ教ル所ハ萬事ニ涉ルト雖モ其要ハ修理固成ニ在リ是我派名ノ因



テ生ズル所ナリ

第三條

修理固成自ラ修ルヲ本トスト雖モ日神光華明彩ノ神徳ニ則リ公明正大ノ旨ヲ用トセザルベカラズ即チ修理固成ヲ本體トシ光華明彩ヲ大用トス一日モ此用ヲ失フベカラズ一刻モ此體ヲ離ルベカラズ故ニ本派ノ徒タルモノ神拜ハ勿論行住坐臥此八字ヲ念唱シ一生ノ安神ヲ定ムルモノトス

第四條

第一項 凡ソ人ノ世ニ生レ出テ人事ヲ營ム總テ神道ニ由ル衆庶神徳ヲ蒙ラザルハナシ故ニ我泓内ノ者ハ平日左ノ祭神ヲ敬拜シ其恩頼ニ報ヒ且吾幸福ヲ祈ルヘシ

第二項 祭神

天之御中主神	高皇產靈神	神皇產靈神
伊邪那岐大神	天照大御神	天神地祇八百萬神
別祭神		
伊邪那美神	祓戸神	風神
寒神	水神	火神
木神	金神	土神

保食神

大穴牟遲神

少名毘古那神

石長毘賣神

第三項 泓内信徒八百萬神ノ中ニテ各自信仰スル處ノ一神二神ヲ祠宇等ニ表章シ鎮祭信仰スルハ志次第ナルベシ

第五條

第一項 本泓ノ教書ハ皇典ヲ根本トシ儒書ヲ羽翼トス然レトモ心魂ヲ修理固成スルヲ先トスルガ故ニ實行ヲ專一トスベシ依テ一行ノ書ヲ讀メバ直ニ實行ニ施スコトナレバ博學ヲ要セス實行ヲ主トス初學ハ本泓ニテ編輯スル所ノ書ヲ讀ミ而後根本羽翼ノ書ニ涉ラシムベシ尤儒書ハ我國體風俗ニ合ハザル件ハ削去リ以テ一部ノ書トシ之ヲ本泓ノ教典トス此他外邦ノ書ト雖モ我教法ニ益アルモノハ收テ捨ルナシ

第二項 凡ソ本泓ニテ讀ム所ノ書籍ハ本泓内ニテ上木スル處ノ教籍類並ニ神皇正統記古事記日本書紀古語拾遺及ヒ四書五經抄錄等ナリ次ニ邦文漢文ヲ學ブベシ且和漢歴史ヲ讀ミ治亂沿革ヲ心得ベシ又各國事情ニ通ジ當世ノ時務ヲ曉知スベシ

第六條

派内教師並ニ信徒タルモノハ平素我國體ヲ保護シ尊王盡忠ノ念須臾モ之ヲ忘ルベカラズ



第七條

人ニシテ食ニ乏シキハ身ノ飢ナリ人ニシテ道ヲ知ラザルハ心ノ飢ナリ本派ハ教ヲ以テ人心ノ飢ヲ救フニ在リ救ノ大ナルナリ心苟モ教ヲ守リ身ニ修理固成ノ道ヲ履行スレバ即身修リテ自ラ生業ヲ修理固成スルハ勿論ノコトニテ家富ミ身ハ飽足スベシ

第八條

派内各其生業ニ從事勉勵シテ怠ルヘカテズ特ニ奢侈ヲ禁ジ儉約ヲ本トシ派内共同又ハ獨立ニテ務テ金穀ヲ積ミ凶年等不虞ノ用ニ備フル方法アルベシ

第九條

第一項 教務局ハ當派各社各教師ニ關スル事務ヲ統理スル所ナリ乃チ布教庶務ノ二課ヲ設ケ掛員ヲ置ク左項ノ如シ就テハ管長住居スト雖モ都合ニ寄リ各分局各支局ニ巡廻シ滞在スル事アルベシ其時ハ本局ニ代理トナルベキ者ヲ置クイモ有ベシ

第二項 教務局中職員稱號

- 受付掛 應接掛 撰舉掛 學務掛 結社掛
- 會計掛 祭典掛 祈禱掛 編輯掛 靈祭掛
- 監察

第十條

第一項 教務分局ハ各縣ニ之ヲ置キ教務支局ハ每一郡ニ之ヲ置ク共ニ教務ニ關スル願同等ヲ本局ヘ直ニ進達スルヲ得セシム從前設置ノ支局ハ之ニ屬スル事トス分局ハ二年毎ニ其縣内ノ望ミニ應ジ各支局ノ内ヲ撰テ之ヲ移轉スル事アルベシ

第二項 教務支局二種ニ分ツ其一ハ新築支局其二ハ祠宇内ノ支局其三ハ人民家屋ヘ設置ノ支局共ニ支局ハ講社事務所說教所宗學校等ヲ含有シ地方派内一切ノ教務ヲ取扱フモノトス尤信徒ノ願ニ依リテハ支局ノ外ニ單ニ教會所說教所ヲ出願スル事アルベシ

第三項 教務分局支局ヘハ本派ニテ書スル所ノ主神神號軸ヲ渡シ置ナレバ局中ニ祭

リ置ベシ派内信仰ノ者ニ限リ參拜ノ儀ハ差支ナキモノトス

第四項 教務分局支局ニハ本派内ニテ出版ノ書籍ヲ悉皆備ヘ置キ平素信徒ニ誦讀セシムベシ

第五項 分局支局ニテハ生徒ヲ置キ本派學科ノ書籍ヲ講求セシメ或ハ說教スベシ學

務ノ餘暇ニハ運動ノタメ劍術槍術ヲ修スル妨ゲナシ

第六項 從前分局支局ヲ設立スル手續ハ管長ヨリ出願シ御開届ヲ受シ例ナレバ十七

年十月戌第二號御達ノ趣モアレレ從前ノ手續ニ依リ信徒惣代擔任教師連書ノ願書ヲ

取り管長ヨリ直ニ地方廳ヘ願出ル事トス



- 第七項 教務分局支局ヲ新ニ設立願並ニ移轉届ノ書面ハ管長ヘ差出スベシ直ニ地方  
廳ヘ願届書ヲ差出スヲ得ベカラズ
- 第八項 教務分局支局ニ於テ印ヲ作テ禁ズ若シ己ムヲ得ザル事情アリテ印ヲ作ルナ  
レバ教務支局詰何ノ誰ト姓名ヲ記載スヘシ尤モ本局ヘ伺出ノ上施行スベシ
- 第九項 各郡内教務支局ナキ所ハ成規ノ手續ヲ經由シテ漸次設置スベシ
- 第十項 教務分局支局ヲ信徒協議ノ上新築スルニハ該地所永久動キナク當派ノ所有  
トスルヲ表スル爲ニ地券證ハ管長新田邦光名受トスベシ人民私有地ヘ分支局ヲ新築  
スルヲ得ベカラズ
- 第十一項 教務分局支局ハ教法ノ役所ナレバ地方廳郡役所等ト體裁ヲ異ニスレバ務  
テ檢索ニ設クベシ且教務分局支局ト板ニテ門前ニ標識スベシ
- 第十二項 本派教務本局分局支局等ノ名ヲ以テ借金スルヲ禁ズ管長ノ添書無クシテ  
借用ノ金ハ本人私擅ノ借金トスレバ其者ヨリ辨償スルモノトス
- 第十三項 教務分局支局長并ニ縣郡教務取締ノ儀ハ總テ在職ノ期限アルベシ且分支  
局長ハ縣郡教務取締ト兼務セザルモノトス
- 第十四項 分局支局職員

教務分局長

教務支局長

縣内教務取締

郡内教務取締

第十一條

- 第一項 本派千七十三社七部ハ各教務支局ヘ屬スベシ各社各部社員ハ神恩ヲ謝スル  
爲ニ一箇年ニ一兩度支局ヘ出頭シ祭典ヲ執行スベシ又常ニ本派ノ教書ヲ誦讀シ結社  
ヲ盛大ニスベシ
- 第二項 信徒ノ願ニ應ジ何十社何百社ト唱フルヲ望ミノ字ニ換ヘ社號ヲ部號トスル  
事ヲ得ベシ
- 第三項 各社ノ内人員數多ニシテ其中ニ修身弘道等ヲ主トスルアリ或ハ某神社ヲ信  
仰スル等ニテ心ヲ固ムルアリシニ何社トノミ唱ヘテハ分明ナラザル向ハ其主トスル  
所ニ依テ二字或ハ三四字ヲ加ヘ何社何々組何社何々部ト相唱フベシ
- 第四項 凡ソ一社内一部内ハ吉事相慶シ疾病患難相救助スベシ
- 第五項 各社部人員ハ管長新田邦光門人ナレバ一同品行ヲ方正ニスベシ
- 第六項 前項ニ依リ講社號四種ニ分ツ何社ト唱フルアリ何部ト唱ルアリ何社何部ト  
唱フルアリ何社何組ト唱フルアリ共ニ當派ノ教ヲ遵守セシメ固結ニ至ルヲ要ス
- 第七項 凡社ハ地方最寄ニテ結ビ便宜ニ隨ヒ部或ハ組ヲ立ベ社シ部内ノ者ハ社中ノ  
手廣キ家ニ時々集會シテ道ヲ講求スベシ尤産業ノ妨トナラザル日ヲ繰合セ行厨ヲ持  
參シ會主ヘ厄介ヲ掛ベカラズ



第八項 毎社々員互ニ相教戒シテ修理固成ノ道ヲ守ラシムル爲ニ五家ヲ一組トシ其中ニテ組頭ヲ立テ四人ヘ示諭セシムベシ二十五家以上ニハ世話掛ヲ置ベシ

第九項 人民戸主タル者捺印入社スレバ家族ハ悉皆入社ノ事トス

第十項 入社ノ者ハ各自印鑑ヲ授與スベシ且門標ヲ掲ゲサセ一目シテ修成派内タル儀知ラル、様スベシ尤本人門標ヲ欲セザレバ掲ゲザルモ勝手タルベシ

第十一項 入社ノ者派名ヲ借リテ財ヲ人ニ借ルノ所行アルベカラズ又派名ヲ借リテ頼母子講無盡等ヲ企テ人ヲ勧誘スルヲ得ベカラズ

第十二項 教法ハ人ヲ善道ヘ導ク本旨ナレバ從前犯罪ノ者タリトモ改心シテ入社ヲ願出レバ入社ヲ許シ教導シテ善人トスルヲ要ス假令犯罪ノ者ニテモ犯罪ノ次第ニヨリ善人トナリシ後三箇年ヲ過レバ教師試補ヘ採用スル事モアルベシ

第十三項 同社中ニ心得違ノ者アレバ忠告シテ改心セシムベシ

第十四項 祭典教導葬儀當派方法ニ隨フ者教義ニ盡力シテ功アル者品行方正ナル者孝子貞婦又布教上ニ就テ金圓ヲ出ス者等ハ本條第十九項ノ等級ヲ授クベシ

第十五項 派内社部中ハ正副社部長分局支局長ノ教ニ隨フベシ社部長分支局長ハ總テ管長ノ指揮ヲ遵守スベシ

第十六項 社中教義ニ屬シ益アル論說ハ派内ヘ廣告スベシ

第十七項 修成ノ教ヲ人民ヘ勧誘スル勿論ナレモ神祇ヲ假テ人ヲ惑ス事アルベカラズ

第十八項 派内ノ者ハ當派方法ヲ守リ安ニ本局ヘ郵書等差出スベカラズ若シ郵書差出タリトモ教規外ノ事件ハ本局ヘ出頭スルニ非レバ詮議ニ及ビ難シ依テ其書ハ没書トスベシ

第十九項 毎社部職員

世話掛見習 大中少世話掛 説諭掛

正副社長 正副部長

信徒區別

初等信徒

中等信徒

上等信徒

第十二條

第一項 祠宇ハ派内五百戸以上ノ協議ヲ以テ建設地ト資本金ヲ備ヘ建設ノ儀出願スベシ

第二項 政府ヨリ祠宇御許可ノ上ハ祭神神體ハ本派ヨリ授與スルモノトス



第三項 祠宇ニハ主神鎮祭所ト靈祭所ノ二箇所ヲ置ベシ主神鎮祭所ニハ八百萬神在  
 スナレバ社員ノ産土神ニ至ル迄此所ニテ拜ム妨ナシ靈祭所ニテハ其祖先ノ神靈ヲ拜  
 ムベシ

第四項 祠宇ニ住居シ其事務ヲ取扱フ者ヲ祠職ト唱ヘシメ正副二名ヲ置ベシ尤一名  
 ニテ事足ルトキハ其便宜ニ從フ右ハ本派學科ノ書籍ヲ卒業シ人望アル者ヲ人撰シ任  
 狀ヲ授與スベシ且婦女教師ニテモ祠職トナルベキ才德アレバ任ズル事アルベシ

第五項 祠宇三種ニ分ツ其一管長ヨリ首トシテ出金創立スル者ハ本派ヨリ祠職ヲ置  
 キ時々交代セシムベシ其二其地方共立ノ祠宇ハ該地ノ人望アル者ヲ副祠職トシ祠職  
 ハ本派ヨリ人撰ノ上寄留セシムベシ其三ハ自己所有地並ニ所持ノ家及其財産ヲ寄附  
 シ一切他人ノ資財ヲ仰ガズシテ建設シタルモノハ其者ヲ世襲副祠職トス祠職ハ本派  
 ヨリ寄留セシムベシ尤祠職ノ在職ハ五年以内タルベシ

第六項 祠宇ニテハ印ヲ作ルヲ許スト雖モ私ニ作ルヲ禁ジ管長ヨリ文字明瞭ニ雕刻  
 シテ授與スルモノトス

第七項 祠宇ニテハ衆庶ヲ參拜セシムレバ衆庶ヨリ獻納スル金穀及ビ何品ニ限ラズ  
 之レヲ受ル妨グナシ

第八項 祠宇中神札ハ該祠創立ノ旨ニ基キ作ルベケレドモ本局ヘ伺出ノ上施行スベ

第九項 造化三神ハ無上至尊ノ御神ナルニ當派ノ祭神トシ祠宇ニ鎮祭スル事ナレバ  
 祭典ノ節錦旗ヲ用ル妨グナシ

第十項 神國ニ生レ神恩ヲ受タル人ナレバ派内ノ者ハ志次第神葬祭トナルベシ然ル  
 上ハ靈神ト唱ヘシムベシ其祖先ノ靈魂ヲ祠宇ニテ神トシ祭祀スルヲ得セシムベシ且  
 現今葬祭改式ハ勝手ニテ差支ナケレバ當派神葬祭ニ改式スベシ

第十一項 祠宇中ヘ教務支局ヲ設立スルニハ第十條第六項ノ手續ニ依リ届出ルモノ  
 トス

第十二項 祠宇ニハ出納簿ヲ製シ置ベシ本局會計掛ヨリ檢閲スル事アルベシ

第十三項 祠宇地券証ハ神道修成派何々祠ト記載シ地券証ハ祠職之レヲ預リ置ベシ

第十四項 祠宇御許可ノ上ハ建築地所該祠名受ニ地券書換ベシ若シ地券書換ナケレ  
 バ祠宇ノ權利ヲ失フモノトス

第十五項 祠宇ノ財産ニ關スル事ハ正副祠職私ニ進退スルヲ得ベカラズ管長ノ添書  
 ナリテ其地方廳ヘ願出ベシ

第十六項 正副祠職本派ノ教旨ニ背戻スル所行アレバ何時ニテモ免職セシメ更ニ人  
 撰シ祠職ニ任ズベシ



第十七項 祠職任免ノ節ハ地方廳へ届出ルモノトス  
第十三條

第一項 汎内教師等級ヲ定ムル左ノ如シ

管長	大司徒	少司徒	大教正	中教正
	少教正	大宣教	中宣教	少宣教
	大講義	權大講義	中講義	權中講義
	少講義	權少講義	教師試補	

第二項 大司徒ハ即チ管長タリ汎内一切ノ教務ヲ管理シ信徒ヲ統轄シ教師ヲ進退黜陟スルモノトス少司徒其所掌大司徒ニ亞ク管長事故アル時ハ其事務ヲ代理スルヲ得教正ハ其言行信徒ノ規範トナルベキモノトス宣教ハ各地へ派出シ本汎教法ヲ人民へ擴張スヘキ學徳アルモノトス講義ハ本汎教書ヲ人民へ講釋シ教ルヲ得ヘキモノトス教師試補ハ講義ヲ補助シ教ヲ布クモノトス我教法ハ神勅ヨリ出タル者ナルニ其教法ヲ布ク所ノ教師へ管長天神ニ代リ授ル處ノ等級ナレバ天爵ナリ人トシテ此天爵ヲ受ル者ハ無上ノ榮譽トス

第三項 教師讀ム所ノ書籍ハ第五條第二項ニ記載スルガ如シ其性行ハ五件トス其一品行端正其二教義ニ篤志其三衆庶ノ信望ヲ受ク其四教務上ニ功勞アリ其五教務ノ爲

ニ資財ヲ抛ツ

第四項 教師試補以上ハ終身本汎教法ニ從事スル所ノ志ヲ立ル者ニ限ルベシ教師試補ハ本汎教籍十冊以上ヲ買求メ誦讀シ修理固成ノ道ニ基キ人民ヲ説諭スベキ學事アル者ヲ採用スベシ其年齡ハ滿十七年以上ナルヘシ尤學事優等ナレバ年齡ニ拘ハラズ採用スルコトアルベシ

第五項 講義ハ本汎出版書籍並ニ古語拾遺古事記ヲ了解シ人民ヲ教導スベキ學術アリ且皇朝ノ零史ニ通ジ文ヲ作ル者ヲ採用スベシ其正權大中少ハ其學ノ精粗ト第三項性行中ノ件ヲ具スル多寡ニ依リ等級ヲ授ルコトス權少講義以上へ採用スルニハ年齡滿二十年以上ナルベシ尤學術優等教務上ニ功勞アル者ハ其以內ニテモ特別登庸スベシ

第六項 宣教ハ第五條第二項ニ記載スル書ヲ悉皆誦讀其書ニ依リ人ヲ教授スル學徳アリ文ヲ作リ第三項性行中ノ四件ヲ備具スル者ヲ採用スベシ尤講義ノ職ニアル二年以上ノ者タルベシ

第七項 教正ハ前項ノ如ク書ヲ讀ミ文ヲ作り且徳望衆ニ秀テ言語行狀人ヲ感化セシムルニ足リ第三項性行ノ五件ヲ全ク具有スル者ヲ登庸スベシ

第八項 少司徒ハ管長ニ代リ或ハ管長ヲ輔佐スベキ才徳アル人ヲ登庸スルコトス



第九項 前項ノ如シト雖モ本派ノ教ハ言語ヲ主トセズ德行ヲ主トスルガ故ニ其德行ニ觀ルヘキアレバ學術至ラザルモ登庸スルコトアルヘシ又德行ヲ失フ者ハ等級ヲ降スベシ猶其擢擧進退等十五條ニ記スヘシ

第十四條

本派ハ元來新田邦光ノ門人ヨリ成立ス明治六年八月三十一日修成講社結集ノ御許可ヲ受ケ九年十月二十三日別派特立ノ御許可ヲ得神道修成派ノ稱號トナリ今日ノ體裁ヲナシタルモノナレバ管長ハ血脈ニ依リ世襲タルベシ是派内教師信徒ノ希望ニ從フナリ

但シ血脈ノモノ幼少等ニテ其任ニ堪ヘサルトキハ派内ニテ學徳アル者ヲ撰ビ大司徒トシ教務ヲ取扱ハシムヘシ

第十五條

第一項 派内ニテ教師タル者ハ管長ノ指揮ヲ受テ違背スヘカラズ而シテ教師ノ任至テ重シトス夫派内人民ハ各其本業アレバ平素專ラ祭祀ヲ事トシテ我魂魄ヲ天神ヘ通達シ難シ故ニ教師ハ之ニ代リ神ニ仕ヘ常ニ自ラ清明ニシテ心魂天神ト合一ナラシメ派内人民ノ心魂ヲ天神ヘ通ゼシムルヲ職トス即チ神ト入トノ中間ニアル身ナレハナリ故ニ平日塵汚ヲ脫離シ精神ヲ清明ニシテ神ヲ敬シ人ヲ教ルニ從事スヘシ

- 第二項 教師教務上ニハ從前ノ教導職ト權利上ニ於テ同様トス
- 第三項 教師ハ本派學科書籍ヲ講說シ或ハ書籍ヲ離レ脱教スル事ヲ得ヘシ教法ハ一朝一夕ニ學ビ得ベキニ非レバ成ヘキハ教師ノ子弟ニハ本派教法ヲ學バシメ世襲セシムベシ
- 第四項 教師ハ學術上ニ就テ試験採用スベキハ勿論ト雖モ若シ教務上ニ功勞アリ且人望アル者ハ特別ニ採用スル事アルベシ
- 第五項 教師ハ素ヨリ邦光門人ヘ申付ル儀ナレバ最初差出シタル願書ノ廉ニ背クベカラズ依テ終身本派教務ニ從事固結スルモノトス
- 第六項 他教教師等ニシテ本派教師トナラン事ヲ志願スルモノハ從前ノ管長ヘ辭職申立或ハ教師証書返還ノ者ニ限リ之ヲ採用スベシ
- 第七項 派内信徒ニシテ教師試補タラントヲ願フニハ二名以上ノ保証人アルニ非レバ之ヲ採用スル事ナシ尤其人ニ依リ保証人ヲ待タズシテ採用スル事モアルベシ又本人身分上疑ハシキ廉アレバ其郡役所或ハ戸長役場ヘ照會スル事アルベシ
- 第八項 教師ハ其受持社員及人民ヲ教導シ其依頼ヲ受ル所ノ神事祭典ヲ執行スベシ
- 第九項 教師ハ婚姻誕生等ニ立合ヒ式ヲ立ベシ又本派方法ニ依リ疑惑アル者ヘ占斷シ且神慮ヲ伺フヲ得ベシ



第十項 教師ハ總テ人民ノ依頼ニ應シ葬儀靈祭ヲ取扱フベシ  
第十一項 本派ヨリ教師ヲ派出セシムルニハ派出狀ヲ授クベシ又教師某地ヘ派出セ  
ント願出ルモノアレバ學術ヲ試験ノ上派出狀ヲ授クベシ尤豫メ日限ヲ定メ辭令狀ニ  
記載スベシ依テ其日數ヲ經過スレバ該印証ハ無効トス

第十二項 教師ハ自家ニ於テ農工商ノ業ヲ營ム勝手タルベシ  
第十三項 教師不都合アレバ本局ニテ謹慎悔悟セシメ嚴諭ヲ加フベシ若シ本派教法  
ニ違背シ派内ノ妨害トナルモノハ之ヲ免職ス

第十六條

第一項 毎年本派祭神號表ニ心得書ヲ添テ派内ヘ授與スベシ就テハ祭神ヲ信仰シ  
心得書ノ旨ヲ遵守スベシ

第二項 派内ニアル人民ハ其心魂ヲ當派ヘ委託シ當派ハ其心魂ヲ預リタル儀ナレバ  
生前ニハ教師ヨリ教テ其心魂ヲ修理固成ノ道ニ入ラシメ死後ニハ其靈魂ヲシテ神界  
ニ至ラシムベシ故ニ生死當派ヘ委託スル儀ナレバ平素外國ノ神ヲ信ズベカラズ且邪  
說異教ニ入ルベカラズ萬一心得違ノモノアリテ他ノ教法ヲ信ジ本派ヲ離ル、ノ念ヲ  
生ズレバ本派主神ノ神罰ヲ受ル儀ト心得ベシ

第三項 本派ノ教ハ人ニ厄介ヲ掛ザルヲ主トスレバ旅行等ニハ充分旅費ヲ持參シ路

傍ノ派内ヘ面倒筋ヲ掛ベカラズ

第四項 本派ハ神勅ナル修理固成ノ道ヲ遵奉スル正シキ教ナルヲ以テ派内ニハ不正  
ノ者ハ有間敷等ナリ然ルニ萬一本派ノ名ヲ以テ不正ノ行ヒテナス者ハ我派内ノ者ト  
見做ベカラズ依テ不正ノ者ハ派内ニ居ルコトヲ得ザラシムベシ

第五項 本派ヘ入社スルニハ其志ヲ定ムルヲ主トシ別ニ金穀ノ論ニ及ハズ然シテ入  
社スレバ本人道ヲ守リ財ヲ殖シ其益勸カラズ道ノ爲世ノ爲メニ務メテ派内ヲ増加盛  
大ナラシムベシ

第十七條

第一項 教法上ニテ金穀ノ事ハ言フヲ欲セザレモ後世ヘ永續スル方法ハ金穀ノ事モ  
除クベカラズ依テ聊カ爰ニ記ス教務本局入費ハ派内各教師各縣分局各郡支局又ハ信  
徒ヨリ之ヲ辨スベシ

第二項 教務分局支局ノ入費ハ其郡内或ハ支局ニ屬スル信徒ヨリ辨スルモノトス  
第三項 教師等其受持社中及他ノ人民ヨリ信仰上ニテ差出シタル金穀及ヒ諸物品ヲ  
受ル妨ゲナシ

但シ信仰ナキ者ヘ金穀ヲ課シテ取ルヲ禁ズ

第四項 凡ソ分局支局祠宇等ニ於テ信徒ヨリ納ムル處ノ金穀ヲ計算シ四分ノ一ハ本



局へ差出スヘシ

第五項 本派ヨリ教師へ派出申付レハ旅費ヲ渡スベシ教師派内ヲ巡廻シテ謝物ヲ受レバ悉皆本局へ納ルモノトス若シ教師自費ニテ道ノ爲ニ派内ヲ巡廻スルニハ其謝物ハ本人へ與フト雖モ其四分ノ一ハ本局へ納ムヘシ

第六項 本派ハ未ダ入社セザル人民ヲ結集スル儀急務トスレバ教費モ亦夥シ依テ派内有志ノ人ハ其分ニ應ジ出金アルヘシ

第十八條

第一項 毎年十月二十三日ヲ以テ大祭典日ト定メ毎月二十三日ヲ以テ小祭典日トス祠宇并ニ教務本分支局ニ於テ執行フベシ又毎月五日ヲ以テ集會日トシ教務ヲ講究スヘシ右等ノ日ニハ本派ノ標旗ヲ掲グヘシ○日兩様ヲ用ユ

第二項 派内ニハ農業蠶業ノ者最多シ依テ春ノ内ニ日ヲ撰ヒ五穀豐熟ノ爲ト養蠶倍盛等ノ爲ニ教師祭典スルコアルヘシ且派内ニテ火災ヲ防グ爲ニ教師等本派別祭神火神ヲ齋キ祭リ鎮火式ヲ行フ事アルヘシ

第十九條

本派ノ教ハ人事即修理固成ヲ盡ス主トス故ニ派内ノ者常ニ身體ヲ養生シテ疾病ナカラシメ萬事敬慎シテ災害ナキヲ要ス若シ疾病患難等アレハ之ヲ免ル、爲ニ神祇へ

對シ禁厭祈禱ヲ執行スヘシ

但シ教師試補以上ハ衆庶ノ依頼ニ應シ禁厭祈禱スル差支ナシ派内信徒ハ自己ニ屬スル禁厭祈禱ヲ行フハ差支ナシ世話掛ハ信徒自己ノ禁厭祈禱ヲ行ヒ難キ節ハ本人ニ代リ執行フベシ

第二十條

派内ノモノ内心ノミナラズ外體ニ於テモ修理固成ノ務メナカルヘカラス故ニ専ラ威儀ヲ慎ミ禮節ヲ守リ親睦ヲ表スヘシ特ニ管長へ對シ至當ノ禮儀アルヘシ

第二十一條

第一項 樂ハ哀樂ヲ別ニス本派ハ八音ヲ合奏スルヲ主トス尤八音並ヒ兼ルトキハ大鼓ト木トヲ合セ拍テ假ニ之ニ換フベシ

第二項 總テ祭典ノ節ニハ講釋アルハ勿論ナレトモ講釋ノ間ニ神慮ヲ慰ムル爲ニ雅樂俗樂ヲ用ルコトモアルヘシ

第二十二條

教師禮服ノ制ハ祭服直垂淨衣狩衣ヲ交用ス尤少宣教以上ハ其服ノ製錦ヲ用ルヲ許ス權少講義以上ハ絹ヲ用ルヲ許ス教師試補ハ葛織麻等ナルベシ女教師ハ烏帽子ヲ除ク但シ權少講義以上モ本派儉素ノ教ニ隨ヒ葛織麻等ヲ用ル妨ナシ説諭掛世話掛等祭



事ノ節直垂ノ裁縫ヲ畧シタル服ヲ用ルヲ得セシム尤平日教師試補以上ハ在宅他行  
トモ直垂着用致シ候儀適宜タルベシ

第二十三條

汎内人民平生所用ノ器物ハ成ルベキ丈我國産ヲ用ユヘシ衣類ハ寒ヲ蔽テ主トス木綿  
ヲ用ル尤健康ニ益アリ特ニ儉ヲ表ス飲食ハ飢渴ヲ凌グヲ主トシ甘美ヲ食ル勿レ家屋  
ハ雨露ヲ禦グヲ主トシ華麗ヲ望ム事勿レ總テ道德ヲ求ルヲ務メ衣食住ノ奢ヲ除クヲ  
要ス

但シ官職アルモノ其職掌上ノ爲ニシ財產アルモノ其分ニ應スル如キハ此限ニアラ  
ズ

第二十四條

本汎ハ別汎特立以來他ノ汎教ト協議決約スル事ナシ後來モ他派他教ト關涉セザルヲ  
要ス一筋ニ修理固成ノ道ヲ擴充スヘシ

第二十五條

汎内ノ者彼我意見ヲ異ニシ論理決セザル場合ニ於テハ之ヲ本局へ申出ヘシ成ヘキ丈  
双方へ權利義務ノアル所ヲ説諭シ和平ニ歸セシメン事ヲ欲ス

第二十六條

一家ノ靈祭ハ其戸主ノ任ナレバ神官ノ神社へ仕ル如ク相心得日々敬拜シ時々祭典ヲ  
行ヒ怠ル事アルヘカラス

第二十七條

喪ハ一生中ニ一度ノ大禮ナレバ最モ慎ムヘシ喪家ニハ哀悼ヲ主トシ酒ヲ飲ミ魚ヲ食  
フ事無カルヘシ

但シ死者ノ神靈へハ如在ノ禮ヲ盡シ酒魚ヲ備フヘシ

第二十八條

男子滿十七八年女子滿十四五年ニ至レハ必ス本汎祠宇或ハ教務本分支局ノ内ニ至リ  
神拜シ教師ニ就キ修理固成ノ旨即人道ヲ聽キ成人タルノ志ヲ立ヘシ

第二十九條

婚姻ノ禮ハ男女家ヲ治ルノ始メ一生ノ大事ナレハ最モ其禮ヲ正クシ婚家ニハ必ス教  
師ヲ招キ夫婦ノ道修理固成ノ道ヲ聽聞シ終身修成ノ道ニ從事スヘシ  
但シ妻ヲ娶ルハ子孫繼嗣ノ儀ト祖靈ノ祭ヲ助ケシムル爲ト心得ヘシ

第三十條

凡ソ本局ニ關スル件ハ一汎内ニ貫通シテ盡カシ本汎ノ盛大ヲ務ムヘシ汎内ノ人ハ本  
派ノ教法海内へ擴充スルハ勿論海外へモ擴充セシムルノ規模アルヘシ



第三十一條

凡ソ河内ニテ行フ所ハ萬般ト雖モ悉皆修理固成ノ道ニ歸着シ天神ノ神徳ニ符合シ本  
河永積萬億斯年ニ至ルヲ要ス

前書之通教規相定候條御認可被成下度此段奉願候也

明治十八年四月二十五日

神道修成派管長新田邦光



内務卿伯爵松方正義殿

(指令朱書)

印書面之趣認可候事

明治十八年六月二十五日

内務卿伯爵山縣有朋





神道修成派教規十三條細則

本派教師分限及等級ヲ修正シ且試験學科及試験方法認定等ヲ精詳ニシテ教規十三條細則ヲ設ル左ノ如シ

第一條 本派大司徒ハ即管長タリ少司徒ハ管長代理ノ任ナルヲ以テ大少司徒ヲ普通教師ニ授與セズ少司徒ハ六級以上教師ノ中ヨリ才徳アル者ヲ管長特ニ登庸ス大教正以下教師等級ハ左表ノ如シ

職名	等級
大教正	一級
中教正	二級
少教正	三級
大宣教	四級
中宣教	五級
少宣教	六級
大講義	七級
權大講義	八級
中講義	九級
權中講義	十級
少講義	十一級
權少講義	十二級
教師試補	十三級

第二條 本派教師分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格スル者ニ非レバ之ヲ授與セズ  
 第二條 左ノ項目ニ觸ル者ハ教師ニ採用セズ

- 一 品行不正ノ者
- 二 瀛嶺白痴瘡腫ノ者
- 三 重罪及定役ニ服スベキ輕罪ニ處セラレタル者
- 四 家資分散者及身代限りノ處分ヲ受ケタル者又復權後若クハ辨償ヲ終ヘ



テ一ヶ年ヲ經過セザル者

五項 本派又ハ他教ニ於テ懲戒等ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ滿二ヶ年ヲ經過セザル者但滿二ヶ年ヲ經過スルモ悔悟ノ實証アラザル者

第四條 教師ノ檢定ヲ分テ左ノ二種トス  
甲種 試驗  
乙種 認定

第五條 甲種檢定ハ學業ノ誠驗ヲ行フモノトシ是ヲ分テ左ノ二種トス  
教義學科  
普通學科

第六條 教義學科試驗科目左ノ如シ

一	種	二	種	三	種	四	種	五	種	六	種	七	種
六國史	口筆記述	日本紀	口筆記述	古事記	口筆記述	日本書紀	口筆記述	古事記	口筆記述	神皇正統記	口筆記述	教義初編	口筆記述
延喜式	口筆記述	續紀	口筆記述	原抄	口筆記述	拾遺	口筆記述	修成道讓義	口筆記述	教憲略	口筆記述	成憲略	口筆記述
修成道教典	口筆記述	成錄	口筆記述	成略	口筆記述	成略	口筆記述	吉凶開示	口筆記述	冠婚略	口筆記述	成憲略	口筆記述
周易	口筆記述	經講	口筆記述	中庸	口筆記述	語義	口筆記述	經講	口筆記述	靈祭略	口筆記述	神拜略	口筆記述
文宣命	口筆記述	文宣命	口筆記述	文宣命	口筆記述	文宣命	口筆記述	文宣命	口筆記述	文宣命	口筆記述	文宣命	口筆記述
漢文	口筆記述	漢文	口筆記述	漢文	口筆記述	漢文	口筆記述	漢文	口筆記述	漢文	口筆記述	漢文	口筆記述

第七條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ヲ及第セシ者ハ再度ノ試驗ヲ要セズ

日本歴史  
萬國歴史  
日本地理  
萬國地理

第八條 試驗ノ種目ヲ分テ七種トシ三種以上ヲ高等トシ四種以下ヲ尋常トス  
第九條 高等試驗ハ毎年二期四月本派本局ニ於テ執行シ尋常試驗ハ毎年四期九月十二月本派本分支局ニ於テ執行ス

但時宜ニ依リ臨時試驗ヲ執行スルコトアルベシ  
第十條 地方ニ於テ高等試驗ヲ請フモノアル時ハ管長ハ高等檢定委員ヲ受驗者所轄ノ本派分支局ヘ派出セシメ試驗ヲ執行スルコトアルベシ

第十一條 試驗方法ハ高等尋常トモ左ノ如クス  
一 項 問題ノ筆記ハ一書ニ付一節口述ハ一書ニ付三節トス  
二 項 筆記ハ一節二時間作文ハ一題三時間トス

第十二條 試驗點數ハ左ノ如シ  
一 項 各科百點ヲ以テ滿點トス  
二 項 各科得點ヲ合算シ平均六十點以上ヲ及第トス  
三 項 平均六十點ヲ得ルモ一科若シ四十點ニ達セザレハ落第トス



四項 平均八十點以上ヲ甲點トシ以下ヲ乙點トス  
第十三條 第十二條第四項ノ得點ニ依リ職級ヲ定ムル左ノ如シ  
但一種七種ノ試験ハ此限リニアラズ

種目	一	二	三	四	五	六	七
甲點	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
乙點	九級	十級	十一級	十二級	十三級		

第十四條 試験ニ落第セシ者高等ハ滿一ヶ年尋常ハ滿六ヶ月ヲ經過セサレバ再試験ヲ請フコトヲ許サス

第十五條 新補試験ハ十一級以下トス尤高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ六級以下判任官タリシ者又判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ九級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得

但認定ハ第十八條ノ規定ニ依ル

第十六條 昇級試験ハ越級ヲ許サズ尤特別ノ事情アル者ニ限り管長ハ檢定長檢定委員ノ具申ヲ經テ特ニ越級試験ヲ受ルコトヲ許可スルコトアルベシ

第十七條 大教正ハ試験ヲ要ゼズ管長之ヲ特命ス其人員ハ十名ヲ超過スルコトヲ得

ズ

第十八條 認定ハ左項ノ一ニ當ル者ニ限り教義學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除シ甲部ハ七級以下ニ乙部ハ十一級以下ノ教師ニ補命スルコトヲ得  
但認定時期ハ第九條ノ例ニ依ル

甲部

- 一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者
- 二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者  
以上ハ教義學科試験ヲ免除ス
- 三 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
以上ハ普通學科試験ヲ免除ス

乙部

- 一 項 神宮宮掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者
- 二 項 神宮皇學館專科卒業業者及皇典講究所五等司業以上ノ者
- 三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者
- 四 項 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル成績アル者
- 五 項 十年以上管長邦光ノ教ヲ受タル門人且本派ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ



六項 顯著ナル功績アル者  
八年以上本派各社部ノ世話掛説諭掛等ニシテ教義ニ精勤シ顯著ナル實効アル者  
以上教義學科試験ヲ免除ス

七項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者  
八項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
九項 教規第六條ニ依リ平素尊王盡忠ノ念篤クシテ有志ヲ團結セシ者又孝ハ

道徳ノ本教ノ生スル所ナレバ忠ト孝ヲ行ヒ世人ヲ感動セシムル者  
以上普通學科試験ヲ免除ス

第十九條 本派教師タリシ者ニシテ腹職ヲ請ヒ又他教ノ教師タリシ者ニシテ更ニ本派教師ヲ志願スル者ハ試験ノ一部又ハ全部ヲ免除シ原職級ニ相當スル等級以下ニ補命スルコトヲ得

第二十條 試補以上ノ教師ニ就職シテ左表ノ年限ヲ經過シ教義上功勞アル者ハ其成績ト德行ヲ認定シ一級ヲ進ムルコトヲ得猶本派本分支局ノ事務員及擔任教師縣郡内教務取締ニシテ功績尤著シキ者ハ認定ノ上一年ヲ短縮スルコトアルベシ但七級ヨリ六級ニ昇級スルニハ必ず試験ヲ要ス

年限	滿四年	滿四年	滿四年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年	滿二年	滿二年	滿二年	
級	少教正	大宣教	中宣教	少宣教	大講義	權大講義	中講義	權中講義	少講義	權少講義	教師試補

第二十一條 試補以上ノ教師教義上實効アル者疾病危篤ノ節ニ限リ試験ヲ要セズ一級ヲ進ムルコトアルベシ

第二十二條 檢定ヲ行フ爲メ檢定長及檢定委員長檢定委員ヲ置キ左ノ資格アル者ヲ以テ檢定長及高等檢定委員トス

一 項 本派教師就職七ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者

二 項 明治十七年八月十一日以前六級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者  
左ノ資格アル者ヲ以テ尋常檢定委員トス

一 項 本派教師就職五ヶ年以上ニシテ現職七級以上ノ者

二 項 明治十七年八月十一日以前八級以上ノ教導職ニシテ現職七級以上ノ者  
三 項 本派教師縣郡内教務取締ノ職ニシテ現職八級以上ノ者

第二十四條 檢定長ハ止副二名トシ高等檢定委員資格者中ヨリ管長之ヲ特ニ命ス

第二十五條 檢定委員長及檢定委員ハ高等尋常トモ第二十二條第二十三條各項ノ資格者中ヨリ管長之ヲ特ニ命ス但定員ナシ



- 第二十六條 試驗臨場檢定委員ハ高等尋常共ニ委員長一名委員二名トス  
但委員長欠席ノ節ハ委員首座ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二十七條 高等檢定委員長及尋常檢定委員長ハ檢定委員ト共ニ受験者ノ筆記以外ニ關スルモノヲ審査シ其成點ヲ檢定長ニ報告シ筆記ニ關スルモノハ其儘檢定長ニ廻附スルモノトス
- 第二十八條 檢定長ハ高等及尋常檢定委員ヨリ廻附シタル筆記書類ヲ審査シ其成點ヲ高等及尋常檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト合算シ其成績ヲ管長ニ具申ス
- 第二十九條 檢定長及高等檢定委員ハ高等ノ認定ヲ爲シ檢定長及尋常檢定委員ハ尋常ノ認定ヲ爲スモノトス
- 第三十條 檢定委員ハ檢定ニ關スル諸般ノコトヲ執行ス
- 第三十一條 檢定長及檢定委員長檢定委員ノ任期ハ高等尋常共ニ三ケ年トス  
但再任スルコトヲ得
- 第三十二條 試驗立會人ハ高等尋常共ニ各一名トシ立會人ヲ要スル場合ニハ第三十二條ノ資格者ニ就キ其都度管長之ヲ持命シ試驗ニ臨場シテ試験ノ正否ヲ申告スルモノトス
- 第三十三條 高等試驗立會人ハ現職八級以上ノ者尋常試驗立會人ハ現職十級以上ノ者トス

者トス

- 第三十四條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ又ハ試験場外ニ於テ試験ニ關スル事務ヲ取扱ヒ或ハ試験點査ヲ口外シタル者ハ委員ノ資格ヲ剝奪シ若クハ降級ス
- 第三十五條 試驗立會人ニシテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル
- 第三十六條 試験問題ノ漏洩ヲ受ケタル受験者ノ試験ハ無効トス
- 第三十七條 試験及認定ニ關スル書類ハ總テ本泓本局ニ保存ス
- 第三十八條 本泓教規ニ依リ既ニ教師分限及等級ヲ授與シタル者ト雖モ自今昇級ノ場合ニ於テハ教規十三條細則ニ依ル
- 第三十九條 試験ニ及第シ教師補命スト雖モ若シ品行不正道徳ヲ破ル廉アル者ハ免職ス



黑住教々規 懲誠規約例 教規細則

教規附錄 教規雜則

本月一日付ヲ以テ教規中更正御認可願別紙記載中不完全ノ廉御座候ニ付御取消被下  
今般更ニ別紙之通進達仕候條御詮議ノ上御認可相成候様致シ度尤本願御認可ノ上ハ  
兼テ爲御參考相添進達仕置候教規細則附錄共本願更正ノ文字ニ牴觸之廉々ハ訂正ノ  
上爲御參考更ニ進達仕度候條此段奉願候也

黑住教管長黑住宗篤代理

明治十九年七月十七日

權少教正 長 瀨 直 正

內務大臣伯爵山縣有朋殿

(指令朱書)

**印** 書面之趣認可候事

明治十九年八月七日

內務大臣伯爵山縣有朋 **印**

黑住教々規 懲誠規約例 教規細則 教規附錄 教規雜則

五十七



別冊之通教規并附錄懲戒規約例相定度候條至急御認可相成度尤兼テ教内ニ施設罷在候細則及附録爲御參考相添此段上申仕候也

明治十八年六月廿日

黑住教管長黑住宗篤印

内務卿伯爵山縣有朋殿

(指令朱書)

**印**書面之趣認可候事

明治十八年八月十二日

内務卿伯爵山縣有朋**印**

教規更正御認可願

黑住教々規中別紙摘要書之通更正仕度候條至急御認可被成下度此段奉願候也

明治二十四年五月十四日

黑住教管長黑住宗敬印

内務大臣伯爵西郷從道殿

(指令朱書)

**印**願之趣認可ス

明治二十四年五月二十一日

内務大臣伯爵西郷從道**印**

(別紙摘要書ハ略ス)



# 黒住教々規

## 緒言

本教ハ古今未會有ノ教旨ニシテ文化十一年十一月十一日即チ冬至一陽來復ノ日ヲ以テ教基ヲ立ラレ汚隆數回爲ニ教規派約ヲ改正スルヲ數次ニシテ最後ニ學旨ヲ二類ニ分定シ一ヲ實行學トシ一ヲ研究學トス實行學ハ我ヲ離レ無ヲ養ヒ心氣ヲ鎮メ無我無念トナリ禁厭ヲ施シ神徳靈驗ノ表章ヲ主トス之中人以下ノ目的トシ研究學ハ倫理ヲ明ニシ諸教ニ涉リ立教ノ淵源ニ遡リ恩波ノ餘瀝ヲ汲ミ教祖神ノ足跡ヲ履ムヲ主トス之ヲ中人以上ノ目的トシ信徒一團之ニ因リテ教旨ヲ宇内ニ貫徹セシムルヲ要ス夫教會ノ得失ハ民心風俗ニ關スルヤ大ナリ殊ニ本教ハ此學旨ニ由リ此ノ教旨ヲ宗トス故ニ其關係最モ深シ慎マザルベカラザルナリ爰ニ明治十七年八月太政官第十九號ノ御布達ヲ以テ全國ノ教導職ヲ廢止セラレ各教内ノ一ハ總テ各管長ニ委任セラレ、ノ盛運ニ遭遇シ教法ノ一大改革ヲ受ケ教旨ヲ宇内ニ宣揚スル千載ノ一時ニ際會シタルヲ以テ教内ノ規則ヲ加除刪正シ總テ教規ニ據リ細則雜則ニ照準シ土地人情ヲ酌量シ大道ヲ宣揚シ本教ヲ宣布セザルベカラズ故ニ自然諸規則ノ民心ニ違ヒ風俗ヲ誤リ教義ニ矛盾スルモノアラバ便宜ヲ以テ其理由ヲ本廳又ハ東京出張教務局ヘ開申シ指揮ヲ



受クベシ中教會所ハ一所毎ニ教督ヲ置キ教師諸員ノ勤惰ヲ臆別シテ具申スルモノト  
ス因テ布教立教理事ノ三門ヲ開キ教規并細則雜則ヲ立テ之ヲ別冊ニ開示ス主任者夫  
之ヲ領セヨ

布教門 此門ニ從事スル者ハ專ラ本教ノ教旨ヲ練磨シ心氣ヲ鎮靜シ說教禁厭ヲ  
以テ神德靈驗ヲ表章シ報恩謝德ノ實効ヲ奏スルヲ主トスベシ  
立教門 此門ニ從事スル者ハ專ラ立教ノ大旨ヲ研究シ教傳ノ錯誤ヲ訂正シ教徒  
ヲシテ我ヲ離テ活タル誠ノ本躰ヲ自得セシメ教ト道トノ區別ヲ知ラシムヲ  
要スベシ

理事門 此門ニ從事スル者ハ百般ノ教務ヲ負擔シ教規ヲ遵守シ本教ノ大旨ヲ了  
得シ尊信ノ實ヲ履ミ小權ヲ以テ大權ヲ犯スヲナキヲ要スベシ

明治十八年六月

黒住教管長 黒住宗篤

### 教規

#### 第一章 總規

第一條 惟神ノ大道ヲ宣揚スル事

一 皇大神ノ遺訓ヲ宗旨シ天叙ノ彝倫ヲ勤行ス

一 天照大神ヲ禮祭シ天神地祇ヲ崇祀ス

一 息吹ノ心理ヲ時習シ自然ノ大道ヲ顯彰ス

第二條 皇國ノ神典ヲ修明スル事

一 神事ハ歷朝ノ儀範ニ則リ之ヲ施行ス

一 禁厭ハ教祖ノ神傳ヲ以テ之ヲ施授ス

一 信徒ノ願望ニ依リ神符神札神供ヲ授與ス

一 冠婚葬祭等依頼ノ向ヘハ本教ノ禮式ニ據テ之ヲ執行ス

但自己ノ父母妻子等ノ葬儀取扱ヒハ必ズ他人ヘ依頼スルモノトス

第三條 本教ノ教旨ヲ擴充スル事

一 幽顯一致神人不二ノ神理ヲ申明ス

一 學術ヲ研精シ行爲ヲ獎勵ス



一本教ヲ宣布シ民心ヲ教化ス

第二章 名稱

第四條 大教正以下ノ教師ヲ統轄スルモノヲ管長ト稱スル事

第五條 教師ヲ教正講義訓導ト稱シ事務者ヲ輔教教屬書記ト稱スル事

一 教正講義ハ各正權大中少ノ六級ニ訓導ヲ正權二級ニ別ツ

一 輔教々屬ハ各正權大中少ノ六等ニ別チ書記ハ一等ヨリ四等迄トス

第六條 教法宣布ノ所教務取扱所名稱區分ノ事

一 教法宣布ノ所ヲ大教會所中教會所小教會所説教所場ノ五個ニ別チ兼テ神事ヲ修

メ祭儀祈禱禁厭葬儀ノ諸式ヲ傳習實施ノ所トス

但平民ノ居宅タリ共説教開筵ハ支障ナキモノトス

一 教務取扱所ヲ本廳及東京出張教務局トシ自餘教會説教所場ニ於テハ例規ヲ履ミ

適宜ニ取扱ヒ兼テ規約ヲ下シ遺例董督ノ事ヲ掌理スルノ所トス

但規約例ハ附録ニ掲載ス

一 大教會所中ニ司教課教務課財務課ヲ置キ本教宣布教務一切ノ事ヲ管理シ合稱シ

テ本廳ト稱ス

第三章 職制

第七條 管長ハ教務一切ヲ總轄シ上下ニ對シ其實ニ任スル事

一 教師ノ禮服ハ祭服狩衣直垂淨衣格衣ノ五品ヲ以テ其階級ヲ定ム

一 教師ヲ進退シ各所講社説教場等ノ名稱ヲ許ス

一 修道學校病院貧院等ヲ興設ス

第八條 教師輔教ハ神事布教ノ庶務ヲ分掌スル事

一 神事ヲ修明シ信徒ヲ誘導ス

一 神典ヲ講究シ生徒ヲ教授ス

一 信徒ヲ募集シ講社ヲ結成ス

但結社ハ本教々規ノ細則雜則等ヲ標準トス

一 祭禮及ヒ冠婚葬祭等ノ諸式ヲ執行贊成ス

一 教導職試補ハ教師ニ從ヒ本教ノ要義ヲ練磨シ教書ヲ自修ス

一 教導職々掌上教義擴張ノ見込アラハ管長ヘ具申スルモノトス

第四章 擧

第九條 管長ハ部下教正ノ協議ニ依テ之ヲ擧定スル事

一 教祖神裔孫ノ内學術徳望著シクシテ教師統轄ノ任ニ堪ルモノ

第十條 教師ハ試験法ニ據リ或ハ管長ノ特選ヲ以テ進退スル事



- 一 神事學術優等ニシテ事理ニ通曉セルモノ
- 一 教法熱心品行方正ニシテ人ノ師表タルベキモノ
- 一 平素徳望アリテ布教ニ功勞アルモノ
- 一 教導職試補ハ教法篤志ニシテ將來教師ニ望ミアルモノ

第五章 公 部

第十一條 教會所説教所等ヲ設置スル事

一 教會所説教所等ハ新設廢合共明治十七年十月三十日主務省戊第二號御達ニ照準ス

但參照御達面

教務所講社事務所ノ類 教會所法務所 説教所説教ノ行フモノ 取設ハ従前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出其移轉廢合ハ届出ツ可シ

第六章 雜 則

- 第十二條 教會所ノ衆力ヲ併テ貧民ノ授産ヲ設ケ濟世ノ便益ヲ圖ル事
- 一 山海ノ遺利ヲ興シ農漁ノ裨益ヲ圖ル
- 一 衛生ノ方法ヲ講習シ生徒ノ躰操ヲ練磨ス
- 一 信徒ノ活計ヲ補ヒ行旅ノ便益ヲ圖ル

第十三條 東京出張教務局及各所講教徒ノ紛糾ヲ鎮靜シ邦家ノ安寧ヲ圖ル事  
右ノ條件ヲ以テ通規トシ猶實施ノ上支替アル時ハ稟伺ノ上認可ヲ乞フベシ



附錄懲誠規約例

第一章 教規例

- 第一條 本教ニ於テ懲誠スル規約ヲ分テ四種トス
  - 其一 重懲誠
  - 其二 輕懲誠
  - 其三 譴誠
  - 其四 諭誠
- 第二條 重懲誠ハ其部内ニ於テ有心故造或ハ過誤失錯ノ徒ヲ申請スレバ其事由ヲ按檢シ管長之ヲ決行シ畢ヌ
- 第三條 輕懲誠ハ前條ノ手續キテ以テ意見ヲ附シ管長ノ裁下ヲ經テ之ヲ處斷ス
- 第四條 譴諭誠ハ各所長及教督適宜之ヲ處置シテ管長ヘ具申ス
- 第五條 輕重懲誠譴諭誠ハ懲誠爲スベキ違則例ノ條款ニ觸ルコアラハ教約例ニ照準シテ教規例ノ處置ヲ爲ス
- 第六條 若違例者アリ其不行跡ノ實證ヲ舉テ直轄教會及ヒ各教會ニ於テ能ク審査ヲ遂ケ其手續證據書類ニ意見書ヲ添ヘ中教會所長及教會長教督若クハ副長并係主任

者總テ三名以上連署ヲ以テ管長ヘ具伸ス

但本文手續ヲ爲サハルモノハ其効ヲ有セス

- 第七條 懲誠ニ依ルニ非スシテ免職スベキ者ハ中教會所長及教會長教督副長ヨリ旨ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若其旨ニ違ハサル者アラハ管長ヨリ直ニ解免ス
- 第八條 懲誠ニ依リ免職スル者ハ滿七年以上降級スル者ハ滿五年以上ヲ經テ改良ノ實効アルニ非レバ再補昇級スルコトヲ許サス
- 第九條 謹慎ヲ命セラレタル者ハ滿三年間昇級スルヲ許サス
- 但右兩條共悔悟謹慎ノ現狀保證人アリテ改心ノ實効著シキ者ハ此限ニアラス
- 第十條 譴諭誠ニ係リタル者ハ容易ニ昇級スルヲ許サス悔悟改心ノ實効アル者ハ此限ニ非ラス

第二章 教約例

- 第十一條 重懲誠ヲ分テ免職降級トス
- 第十二條 輕懲誠ヲ分テ謹慎譴責トス
- 第十三條 重懲誠免職ニ係ル者ハ其事由ヲ管轄廳ヘ申報ス
- 第十四條 謹慎ハ五日以上二十五日以下ノ解除ヲ修メシム
- 第十五條 譴責ハ其事由ヲ示シ譴誠書ヲ附シテ將來ヲ誠シム



第十六條 諭誠ハ過失ヲ指摘シ悔悟ノ謝狀ヲ出サシム

第三章 違則例

第十七條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ免職其輕キヲ降級トス

- 其一 管長ノ命令ヲ奉セサル者
- 其二 本教ノ教規及細則ヲ遵守セサル者
- 其三 教正輔教以上ノ者ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者
- 其四 過誤失錯ト雖トモ怠惰ヨリ生スル者  
但過誤モ教義ニ害アラハ其情狀ニ因テ之ヲ處分ス
- 其五 妄ニ吉凶禍福ヲ唱ヘ又ハ祈禱符咒等ニ託シ人ヲ惑シ利ヲ圖ル者
- 其六 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ蠱惑シ風俗ヲ紊ル者
- 其七 神號及ヒ七箇條ノ眞蹟ヲ偽造シ又ハ詐術ヲ以テ教徒ヲ誑惑セシムル者
- 其八 宗家徽號ノ濫込アル用紙ヲ猥ニ私用スル者
- 其九 東京出張事務局及ヒ各所講ノ諸教費募集ノ稱呼ヲ以テ詐術ヲ爲ス者
- 其十 著キ不品行ヲ以テ譏ヲ來シ本教ノ體面ヲ汚ス者
- 其十一 身代限リノ處分ヲ受ケタル者

其十二 重懲誠ヲ受ケ又ハ度々輕懲誠及譴諭誠ヲ受ケテ猶素行修ラサル者

其十三 教費醜金ノ納期兩度ヲ怠ル者

第十四條 教内區域中ニテ當器ノ教職ヲ故意ニ擧セサル者

第十八條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ輕懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重キヲ謹慎其輕キヲ譴責トス

- 其一 諸長ノ命令ニ違ハサル者
- 其二 疎虞懈怠ニシテ教規雜則ニ違背スル者
- 其三 本教内ノ者管長ノ聽許ヲ得スシテ懲誠ノ規約例ニ擬似セル方法施設スル者  
座ノ者
- 其四 凡諸達書ヲ受テ時日ヲ遲緩シ事ニ害アル者
- 其五 本廳名アル用紙ヲ猥ニ私用スル者
- 其六 猥ニ訟訴事件ニ關涉スル者
- 其七 各所長ニ對シ公然不敬不遜違令ノ者
- 其八 同職ニ對シ公然罵詈ヲ爲ス者
- 其九 管長及教正輔教各所長等ニ對シ敬禮儀式ヲ遺失スル者
- 其十 教旨研究ヲ怠リ布教ヲ忽ニスル者



- 其十一 所轄教會說教所場及ヒ講社ノ承諾ヲ得スシテ妄ニ所屬轉換ヲ名トシ人氣ヲ煽動スル者
- 其十二 各所場及講社ノ公撰投票ニ故意ヲ以テ奸策ヲ圖ル者
- 其十三 教賞贖金ノ納規ヲ怠ル者
- 其十四 譴諭誠三度ニ及ヒ猶悔悟セサル者
- 其十五 人ヲ讒誣離間スル者
- 其十六 撰舉法ニ違ヒ撰舉登用ヲ圖ル者
- 其十七 偽言詐術ヲ爲ス者
- 其十八 教師ノ服制ニ違ヒ異様ノ服ヲ着用スル者
- 第十九條 左ノ概目ニ觸ル、者ヲ諭誠トス
  - 其一 講頭教監ノ指揮ニ從ハサル者
  - 其二 約束ヨリ成立タル臨時教費割等ヲ運納スル者
  - 其三 他事ヲ口實トシ本教ノ義務ヲ怠ル者
  - 其四 各所講ノ約則ニ違フ者
  - 其五 教法ヲ名トシ遊戯ノ興行ヲ爲シテ利ヲ圖ル者
- 第二十條 第十七條ヨリ十九條中ノ諸項ニ觸ル者ハ左ノ二項ニ照準シテ所置ヲ爲ス

- 其一 第十七條ノ概目ニ該當スル違則教内ニテ發覺スル者ハ第三條ニ照準シ他ヨリ發覺シ或金額ヲ掠奪詐僞國律ニ觸ル等ノ一アヲハ警官ニ告公法ノ所置ヲ受ケ
- 第二條ノ教規例ニ附ス
- 其二 第十八條ノ概目ニ該當スル違則ハ第三條教規例ニ附ス
- 其三 第十九條ノ概目ニ該當スル違則ハ係長講頭教監等ヨリ懇諭ヲ加ヘ悔悟改心セシメ或ハ教會所ハ入學セシメ第四條ノ教規例ニ附ス
- 第二十一條 凡徳義上ニ於テ責ムベキ者ハ此違則例概目ニ比準シテ所理スルモノトス



更正黑住教々規細則

教務條例

- 第一條 教内一般ノ教導職ハ説教禁厭ニ從事シ教祖神ノ遺訓ヲ遵守シ本教々旨ヲ專一ニ宣布爲スベキ事
- 第二條 大教會所祭典係ハ解除祈禱ノ諸式ヲ勤行シ教徒ニ満足ヲ與ヘ報恩謝徳ノ實ヲ表セシムベキ事
- 第三條 大教會所試験係ハ實行研究ノ宗學生徒ヲ識別シ試験科目ノ的當ヲ得セシムベキ事
- 第四條 新置大中少ノ輔教々屬ハ各自ノ地位ニ因テ順序ヲ定メ教務ニ從事シ教義ヲ計畫爲スベキ事  
但輔教ノ本廳總理ハ司教課教務課財務課ノ各課長ト職務ニ參判シ教屬ハ專ラ所掌ノ教務ヲ分理スベシ
- 第五條 大教會所内司教々務財務ノ三課ハ其課長ト所掌ノ教務ヲ審議シ成規ニ因テ決判爲スベキ事
- 第六條 右三課中係リヲ分チ越權ヲ慎ミ各自負荷擔當ノ所掌ニ從事爲スベキ事

- 但規則外ノ事ハ協議ヲ盡シ經伺ノ上所理スベシ
- 第七條 右三課對立布教々務ニ從事シ事務ノ繁閑ヲ量リ拮据屬精本教宣布ノ教導職ヲ補佐爲スベキ事
- 第八條 東京出張教務局及各所講ノ諸帳簿其他書類時々點驗シ後証ニ備フベキモノヲ整理格議爲シ置ベキ事
- 第九條 各所講並教導職教徒等ノ願伺ハ進達ノ順序ヲ逐ヒ成規ニ據リ所理爲スベキ事
- 第十條 官省並本廳ノ取調ニ係ルモノハ殊ニ注意シ延滞ナキヲ要スベキ事
- 第十一條 右三課中ノ規則更正等ハ面從後言ナク眞卒ノ意見ヲ述ベ臆測ヲ以テ專斷ノ所業爲スベカラサル事
- 第十二條 神納所ハ三課中名簿出納祭典ノ係員ト鼎坐シ出納ヲ明瞭ナラシムベキ事  
但當分ノ内ハ祭典係ト受付員トノ立合ニテ神納ヲ所理シ出納係ヘ廻送スベシ
- 第十三條 神納所當直其日ノ神用教務總テ日記ニ記載シ成規ヲ履ミ處分爲スベキ事
- 第十四條 役員教務ノ爲メ地方在勤或ハ巡廻ノ節ハ分掌セル擔當ノ事務ハ詳細引繼發途爲スベキ事
- 第十五條 教務ニ關スル上請及ヒ府縣往復ノ文書後証ヲ要スルモノハ能ク成規ヲ履



行シ處分爲スベキ事  
 第十六條 教導職ハ衆庶ノ師表トナル者ナレバ操履方正品行殊ニ相慎ムベキ事  
 第十七條 教法擴充ノ所見アラバ議案ヲ草シ經何審判ノ後施行爲スベキ事  
 右教務條例更正候事

更黑住教々規細則

教務規約

第一章 教旨

第一條 教ハ皇大神ノ御教道ハ日ノ神ノ大道造物主ハ日ノ神ノ働キタル教旨ヲ遵奉スベキ事

第二章 教基

第二條 訓誡七ヶ條ヲ奉教ノ標準ト爲スベキ事

第三條 教ノ五事ヲ誠ノ大體ト爲スベキ事

第四條 道ノ契ヲ修行ノ階梯ト爲スベキ事

第三章 誓約

第五條 教旨一條教基三條ハ奉教修道行爲ノ要領子々孫々ニ教訓ヲ胎シ置ベキ事

第六條 神徳師恩ヲ仰キ報國ノ實ヲ表シ虚誕ノ妄説ニ惑フマシキ事

第七條 生々ノ神理ニ外レ道理ノ穿鑿ニ泥ムマシキ事

第八條 我教旨ヲ達シ他ノ教法ヲ妨ケズ他ノ妨害ヲ慎ムベキ事

第九條 教内ノ教徒ハ同胞ノ親愛ヲ懷キ吉凶禍福疾病患難ノ際心切ノ義務ヲ盡シ互



ニ相救フベキ事  
第十條 本教尊信ノ實ヲ表シ神文ヲ納メムト欲スルトキハ成規ヲ履ミ誓約ヲ爲スベキ事

但其手續ハ附錄第一條第一節ヲ參看スベシ

第四章 神拜 附呼氣法別ニ傳アリ

第十一條 毎朝早起盥ヒ嗽キ天照日大御神ヲ拜シ光輝ヲ吸收シ快活ノ陽氣ヲ身軀ノ中府ニ鎮メ次ニ皇大神天神地祇八百万神産土神及教祖宗忠神并祖先ノ神靈等式ノ如ク拜禮爲スベキ事

第五章 禁厭 附禁厭術別ニ傳アリ

第十二條 病者禁厭ヲ請フトキハ先之ニ醫藥治療ノ闕クベカラザルヲ告諭シ能ク醫治ノ効能ヲ説キ服藥ノ有無ヲ質問シ醫師診斷治療中ノ者ニ限り教祖神直接ノ神傳ヲ以テ禁厭施授爲スベキ事

但本教尊信無病ノ教徒治療外ノ信徒ト雖モ實際止ムヲ得ザル者ハ施授ハ此限ニアラズ附錄第二條各節ニ照準スベシ又禁厭法術免許ノ手續ハ雜則第五章ヲ參看スベシ

附リ禁厭術

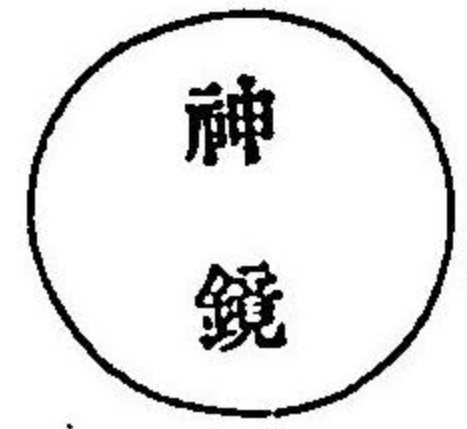
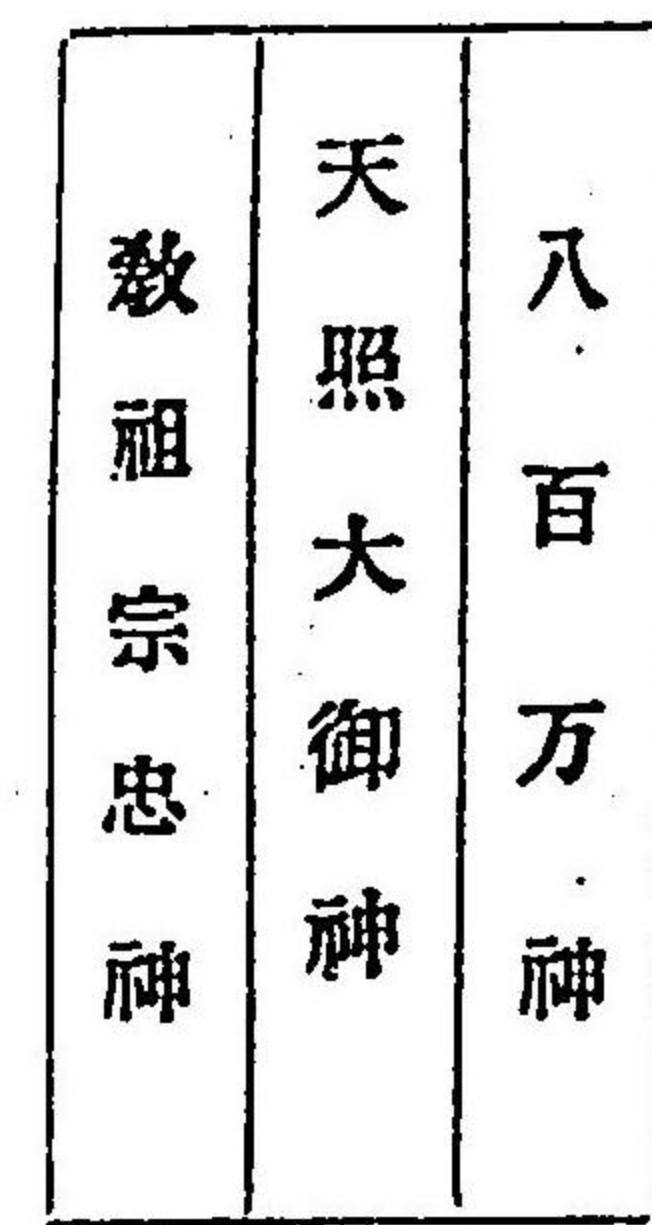
天照大御神大名持神少彦名神八柱神大直神宗忠神ヲ默禱シ禁厭ノ詞ヲ唱ヘ禁厭術ヲ行フベシ

第十三條 禁厭術施行ハ假令教導職ト雖モ管長ノ免許印鑑ヲ有セザル者ハ猥ニ施行ナスベカラザル事

第六章 說教

第十四條 正面ニ神床ヲ設ケ其中央ニ天照大御神右ニ八百万神左ニ宗忠神ノ神號ヲ掛奉リ適宜ノ獻供ヲ以テ齋ヒ奉ルベキ事

第一節 教會說教所場神床ノ裝置左ノ如シ



神 神

但信者ノ宅ヲ以テ一時說教ナス時ハ大御神ノ神號ノミ掛奉モ妨ナシ教會所ニ紛敷施設ヲ爲シ成規ヲ犯ス勿レ

第二節 神前ニ神酒洗米其外清鮮ヲ適宜ニ獻供スヘシ說教ノ時ハ正面



表 別 區 所 務 教 會 教

<p>本 廳 大教會所内ニ 司教課教務課 財務課ノ三課 ヲ置キ合稱シ テ本部ト云ヒ 教内百般ノ教 務ヲ綜理スル 所トス出張東 京教務局亞之</p>	<p>大教會所 教導職ヲシテ 教内ノ信徒等 ヲ總ヘ教祖神 ノ遺訓ヲ傳習 シ教旨ヲ皇張 シ布教傳道ノ 所トス出張東 京假大教會所 準之</p>
<p>廢局ノ理由 從來教務ハ本 局分局又ハ支 局ニテ所理セ シ所布教專務 ノ主義ヲ以テ 本分支局ヲ廢 シ大中教會 所内ニ主任ヲ 置キ之ヲ兼務</p>	<p>地名 中教會所 每府縣廳下若 クハ每一國ニ 一ヶ所(便宜ノ 地ニ)設置シ大 教會所ニ亞テ 所轄教域内小 教會所ノ布教 ヲ總ベ教旨ヲ 研究シ教務ヲ 所理スルノ所トス</p>
<p>ナサシム理事 門ノ要領小權 ヲ以テ犯スナ キノ實ヲ履ミ 形ヲ忘レ心ヲ 養ヒ最布教ニ 注意スベシ</p>	<p>地名 小教會所 每郡區又ハ數 郡區聯合シテ 一ヶ所ヲ設置シ 該區内ノ說教 所ヲ管理シ地 方ノ教徒ヲ教 化誘導シ本教 宣布ノ所トス</p>
<p>黒住教管長 黒住宗篤</p>	<p>地名 說 教 所 從來何々教會 所出說教所稱 ト稱セシモノ ヲ改稱シ所在 郡區内ノ小教 會所ヨリ管理 シ部内團結ノ 講社集合シテ 教法ヲ敷ク所 トス</p> <p>地名 講社說教場 從來別立教中 稱セシモノニ 名ヲ冠稱シ何 ト稱ト改稱ス 故ニ其講中ニ 假設スル教導 職派出シ以テ 其講中ノ社員 ヲ獎勵スル 臨時ノ教場ト ス</p>

ナ外シ便宜ノ所ニ講坐ヲ設聽衆ノ適宜ヲ要スヘシ  
但神酒洗米神水等之ヲ請フ者アラハ授與スヘシ尤教會說教所場ノ外  
猥ニ授與スルヲ許サズ

第三節 說教前教師教徒ト俱ニ神前ニ進ミ再拜短手神言三回ヲ誦シ畢  
テ禮拜拍手スル事前ノ如シ

第四節 教師說教ノ坐ニ臨ム時ハ先神前ニ進ミ一拜拍手天津祝詞ヲ誦  
讀シ拍手禮拜前ノ如シ(幾人講說スルモ前ニ同シ)次ニ說教畢テ坐テ  
下リ神前ニ進ミ教徒ト共ニ神言一回ヲ誦讀シ禮拜拍手總テ前ノ如シ

第五節 說教講義ハ教導職試補以上ニ限ルト雖モ教徒ノ教導ニ從事セ  
ント欲スル者ハ教導職ニ附隨シ說教修行スル片袴羽織ニテ勤ムルハ妨  
ケナシ之ヲ稽古講義ト云

第六節 說教ノ要領ハ天地生々自然ノ道理ニ基キ教旨ニ由リ天照大御  
神ノ神德靈驗ヲ説キ明シ聽衆ヲシテ修身齊家ノ本心ヲ提起シ天理人道  
ノ一誠ニ歸セシメ本ヲ忘レサルヲ要ス其之ヲ敷衍スルヤ訓誡七ヶ條教  
ノ五事道ノ契等ニ據テ神賞冥罰ヲ默識セシメ靈無ヲ養ヒ惟神ノ道ヲ修  
メ吾人快活神人一體ノ神理ヲ感得セシムヘシ



第七章 學問

第十五條 新入門ノ者ハ教師ニ就テ教祖ノ遺訓斯ノ道ノ淵源說教ノ方法等質問研究爲スヘキ事

第十六條 本教ノ傳習ニ研究實行ノ二學種アリ之ニ據リ教祖ノ神傳教旨ノ蘊奧ヲ究メ我ヲ離レ活物ヲ捉ユルノ妙域ニ悟入爲スヘキ事

第十七條 教徒中父兄ニシテ家業ノ餘暇アル者ハ學事ヲ勤メ子弟アラバ必ズ地方ノ小學ニ入レ修學勉強セシメ都テ安信ヲ以テ固陋ニ安ンセシムヘカラサル事

第十八條 教徒中子弟ノ小學ニ入ル者卒業ノ上ハ自立ノ業ニ從事セシメ其學ヒシ教ヲ實事ニ施シ我教旨ヲ奉シ終身方向ヲ誤ラサル様遵守ナサシムヘキ事

第八章 教務

第十九條 本教ノ教務ヲ取扱ハシムルハ端正ニシテ材幹アル人ヲ公撰ナスヘキ事

第二十條 教職輔教々屬等所掌ノ職務ニカテ盡シ衆庶ヲシテ國恩ヲ知ラシメ教化ニ浴セシムヘキ事

但雜則第一章ヲ參看スヘシ

第二十一條 教會說教所ヲ開クニ當テハ從來ノ成規ヲ履ミ其府縣下在勤教導職教徒協議ノ上中教會所ヲ經由シ本廳ヘ稟願シ管長ノ副書ヲ得テ地方廳ヘ出願爲スヘキ



事

但雜則第七章ヲ參看スヘシ未許可前撰ニ正講ナスヘカラス  
 第二十二條 東京出張教務局及各所講ノ權限ヲ定メ布教々務ノ區別ヲ明ニシ本末紊  
 亂ノ弊勿ラサラシムルヲ要スヘキ事  
 但雜則第一章ヲ參看スヘシ  
 第二十三條 本教遵信手厚キ教徒ヘ教級ヲ授與シ幽顯一致神人不二ノ神理ヲ默識神  
 通ナサシムヘキ事  
 但雜則第六條ヲ參看スヘシ  
 第九章 要 結  
 第二十四條 集會ノ節協和ハ勿論禮節ヲ正フシ斯道昌盛ナスヘキ希圖ノ事アラバ哀  
 情ヲ吐露シ假ニモ私意ヲ挾ミ黨派ケ間敷軋轉ヲ爲スヘカラサル事  
 第二十五條 右ノ規約ニ違背スル者アラバ其事由ヲ詳悉シ止ムヲ得サレバ破門ニ及  
 プヘキ事  
 右教務規約更正候事

表 級 等 教 住 黒

講社	說教所	小教會所	中教會所	職員等差		教級	教師階級	
				名稱	等差		名稱	階級
				大輔	一等	大信	大教	一級
				權大輔	二等	權大信	權大教	二級
				中輔	三等	中信	中教	三級
				權中輔	四等	權中信	權中教	四級
				少輔	五等	少信	少教	五級
			所	權少輔	六等	權少信	權少教	六級
			長副所	長教	七等	一級信	大講	七級
			所	長教	八等	二級信	義權大講	八級
		所	長副所	督教	九等	三級信	義中講	九級
		所	長副所	長	等	教	義	級







事

但雜則第七章ヲ參看スヘシ未許可前猥ニ正講ナスヘカラス

第二十二條 東京出張教務局及各所講ノ權限ヲ定メ布教々務ノ區別ヲ明ニシ本末紊亂ノ弊勿ラサシムルヲ要スヘキ事

但雜則第一章ヲ參看スヘシ

第二十三條 本教遵信手厚キ教徒ヘ教級ヲ授與シ幽顯一致神人不二ノ神理ヲ默識神通ナサシムヘキ事

但雜則第六條ヲ參看スヘシ

第九章 要 結

第二十四條 集會ノ節協和ハ勿論禮節ヲ正フシ斯道昌盛ナスヘキ希圖ノ事アラバ哀情ヲ吐露シ假ニモ私意ヲ挾ミ黨派ケ間敷軋轢ヲ爲スヘカヲサル事

第二十五條 右ノ規約ニ違背スル者アラバ其事由ヲ詳悉シ止ムヲ得サレバ破門ニ及ブヘキ事

右教務規約更正候事

正 更 黑住教教規細則附錄

第一條 本教ヲ尊信シ歸屬セル教徒捧神文ノ事

第一節 神文書式

神文之事

皇祖天照大御神ノ神勅ハ天壤無窮ノ教典ニシテ彝倫ノ綱常畏敬尊信爲スヘキ惟神ノ道規ナリ今回入門ノ上ハ更ニ朝廷ノ御政令ヲ奉戴シ御訓誡ニ背カス忠孝ヲ明カニシ人タルノ職分ヲ盡シ終身二念ナキヲ表ス依テ神文ヲ捧呈スル事如件

年 號 月 日  
何 府 縣 士 族 何 國 何 郡 何 村 何 番 地 居 住  
苗 字 名 印

年 號 月 日 生  
當 何 月 十 何 年 何 月 何 日 生

奉 教祖宗忠大神

第二節 神文ハ各地方中教會所(中教會所無之地方ハ小教會所又ハ說教所講社執モ其役員ヨリ)ニ取纏メ置キ姓名目錄相添ヘ三箇月限り本廳又ハ地方便宜ニ因リ東京出張教務局ヘ送達スヘシ遲ク共四箇月ヲ出ツヘカラス其節神納ノ證書夫々相渡スヘシ



但神文神納ノ節ハ入門式(雜則第八章ヲ參看スヘシ)ヲ行ヒ應分ノ束脩ヲ納メ  
サセ之ヲ教費ニ充ツヘシ尤赤貧ノモノハ無束脩モ妨ケナシ

第三節 神文ノ束脩之ヲ二分シ其一ハ地方中教會所ニ止メテ教導入費ニ充テ其  
一ハ本應ニ送致シテ教費ヲ補フヘシ  
但第七條神納表但書ヲ參看スヘシ

第二條 醫師診斷治療外ノ者ヘ禁厭施授ノ事

第一節 本教篤志無病ニシテ心氣鎮靜雜念解除ノ爲メ禁厭懇請ノ者

第二節 盲啞聾塞等ニテ生來癱疾不具ノ者

第三節 刃傷或ハ過誤負傷等ニテ被害治療後尙不具ナル者又ハ多年痼疾ニテ支  
牀不隨氣血閉塞往々癱疾ニ陥リ治療無効ノ者

第四節 病痾ノ徵候モナク性質羸弱ニテ心氣回復ノ爲施授ヲ請フ者

第五節 痰咳溜飲疝氣疳症ノ類ニテ俗ニ持病ト稱シ湯藥ヲ廢シ餘喘ヲ保ツ者

第六節 癩癩肺癆其他難治タルモ其身貧窶ニシテ治療ヲナス能ハサル者

第七節 遐陬僻邑ニテ醫師招聘ニ時間移リ或ハ急遽ノ際傍觀ニ堪ヘサル急病人  
或ハ負傷被害ノ者

第三條 大中小教會所說教所場並教務局等ノ名稱區別ノ事

第一節 本教ハ布教ヲ專務トシ教務之ニ亞ク十七年八月(十二日)太政官第十九  
號布達ニ據リ本教ヲ大教會所中ニテ宣揚シ其教會中ニ司教課教務課財務課ノ三  
課ヲ置キ教務ニ從事ス東京ハ出張東京教務局ト稱シ局中ニ假大教會所ヲ置キ教  
務ヲ主トシ布教ニ從事セシム本應ヨリノ出張之ヲ最第一トス各府縣教會所說教  
所等亞之施設閉鎖等ハ本應ノ管理ニ屬ス

第二節 本教ヲ信仰シ入門スル者ヲ教徒或ハ信徒信教ト云此教徒教義ヲ擴充シ  
災厄ト祓除シ義務ヲ盡スハ衆多ノ力ニ據ラザルヲ得ズ故ニ團結一社ヲナス之ヲ  
講社ト稱ス

第三節 右ノ講社最寄適宜ニ又一團結ヲナシ布教傳道ノ所ヲ設ク之レテ小教會  
所又ハ說教所ト稱シ教徒ヲ會同セシメ葬儀祭祀等ノ事ヲ管理ノ所トス

第四節 說教所ハ往々小教會所タルノ權輿ナレバ位置ヲ撰定シ適宜ノ場所ニ設  
ケ置クベシ其最小ヲ說教場ト稱ス一講社ニテ教義ヲ切磋スルノ所トス

第五節 右教會所ヲ統轄シ布教傳道尙教徒隆起ニ隨ヒ弊習ノ生ゼシヲ規箴監督  
スル所ヲ中教會所トス

第四條 同區別表ノ事

第五條 同沿革ノ事



第一節 大教會所 本廳

明治九年十月別派獨立前ハ教會所教務所ヲ合シテ本講社ト稱セシメ獨立後ハ神道黒住派教務本局ト改正シ本局ヲ教務取扱所トナシ本局中ニ大教會所ヲ置キ布教傳道ノ所トセシテ今改メテ大教會所中ニ司教々務財務ノ三課ヲ置キ合稱シテ本廳ト稱ス

第二節 出張東京教務局 出張東京假大教會所

別派獨立ノ際東京講社ヲ教務本局出張所ト改稱シ出張所中ニ假大教會所ヲ置キ教務布教ヲ兼シメシテ明治十四年四月題號ノ如ク改稱ス同所ハ盤穀ノ下ニ在テ主省ニ關スル教務ヲ掌ルヲ主トセリ且正副管長ノ内一名在勤ノ場所トナリシナリ故ニ今改正ニ際スルモ名稱尙舊キニ依ル其釐正スルモノハ自今管長在勤ノ所トシ不在ノトキハ留守居ヲ置キ教務ヲ管理セシム故ニ本廳ヨリノ出張之ヲ最第一ト爲ス

但明治十年中全國教域内ヲ二分シ三重縣以西ヲ西部トシ愛知縣以東ヲ東部トシ西部ヲ本局ヘ東部ヲ教務局ヘ分屬セシメ以テ教務ヲ執行セシモ十七年八月(十一日)太政官布達第十九號ニ基キ教規ヲ制定シ兩部ノ名稱ヲ廢シ教法上ノ所分ハ總テ本廳ニ屬隸セシム其諸願何屆等ノ取扱ヒハ最寄教徒ノ便宜ニ任セ

第三節 中教會所

東西ヲ論セス地方ノ都合ヲ以テ本廳又ハ東京出張教務局ヘ差出サシム  
別派獨立ノ際各府縣第一分講社ヲ分局ト改稱シ明治十三年四月主省稟伺ノ上地名ヲ冠シテ何々分局トシ分局中ニ中教會所ヲ並置シテ布教傳道ノ所トス今又之ヲ改テ分局ヲ廢シ中教會所ニテ布教傳道ヲ主トシ諸教會ノ流弊ヲ規箴董督スルノ所トス

第四節 小教會所

別派獨立ノ際第二以下ノ分講社ニ番號ヲ冠シ何番教會所ト稱セシモ整理上差支アリ更ニ地名ヲ冠シテ何々教會所ト稱セリ明治十三年四月同稟伺ノ上地名名ノ下ニ小ノ字ヲ加ヘ何々小教會所ト改稱シ地方ノ教徒ヲ教化誘導シ教法宣布ノ所トス

第五節 說教所

講社盛大ナルトキハ一ノ教壇ヲ脩飾シテ之ヲ說教所ト云從來最寄教會所ノ派出說教所ト稱セシヲ明治十三年四月改テ所長ヲ定メ地名ヲ冠稱シテ單ニ何々說教所ト稱ス

第六節 講社







但講頭并教幹等黜陟所長等進退ノ式ニ照準スヘシ世話掛長以下ハ進退ノ上副所長ヨリ届出ヘシ

第十條 各地方教會所又ハ說教所ヲ設置シ說教施行ノ義ハ教規細則第三條并雜則第七章ニ照準シ成規ヲ履ミ開講爲スヘキ事

但講社說教場ニテ說教稽古講義等ハ細則第十四條第五節ヲ參看スヘシ尤會主ハ教師ニ限ル

第十一條 巡迴教師ハ必ズ管長授與ノ派出證ヲ持參シ其府縣下中教會所員ト協議ノ上風土人情ヲ諮詢シ甲乙管内各所ノ氣脈ヲ通シ抵牾勿ラシメザルヲ要スヘキ事

第十二條 巡迴ノ面々不審ノ舉動アラハ其所ニ留置キ中教會所ヘ通知シ不審ノ事由ヲ詳明スヘシ故意ニ教規并細則雜則等ヲ相犯ス者ヲ看過スルアラハ其地方役員ノ越度タルヘキ事

但重大ノ件ハ本廳ノ處分ヲ仰クヘシ

第十三條 各府縣下ノ教徒中年々一回同門中ノ亡靈ヲ簿冊ニ記シ其所ノ教會所ニ於テ招魂ノ祭式ヲ執行シ退テ右名簿ヲ合集シテ本廳ヘ送致スベシ每歲三月廿四日ハ教祖ノ大祭執行ノ日ニ付師弟幽顯ノ親愛ヲ厚クスル爲祭式ニ配享ナスヘキ事

第十四條 大教會所並東京假大教會所ノ神前ニ供スル金穀諸品等ハ一切積置キ本廳

及東京出張教務局ノ教導入費ニ充ツベキ事

第十五條 各所共神納ノ金穀諸品ハ其所ノ教費ニ充ツベキ物ト雖モ其所ハ能ク本廳東京出張教務局ト氣脈ヲ通シ本廳ノ規則ヲ遵守シ成規ヲ履ミ教費ヲ裨補シ尊信ノ實効ヲ立ツヘシ就中講社ハ尊信ノ志ヲ固結セシメ天授ノ福祉ヲ享有シ敬神ノ眞念ヲ憤興シ神道ノ昌盛ヲ感發スルニ注意スヘシ西哲モ教法ヲ離レテ風俗ノ純善ニ進ムヲ見ザルト切言セリ教法ハ生前ノ本心ヲ養ヒ死後ノ幽魂安着ヲ定ムルガ肝要ナリ故ニ教徒ヲ提撕獎勵スルニハ教導職身ヲ以テ之ニ先立道徳ニ基キ虛飾ヲ省キ慈惠ヲ好ミ節儉ヲ行ヒ我ヲ離レシ誠ヲ以テ誘導スヘシ神納ノ諸品教費剩餘ノ分ハ規則ニ照準シ明細仕譯書ヲ以テ本廳又ハ東京出張教務局ヘ開申シ其指揮ヲ受クヘシ專斷ノ處置成スヘカラサル事

第十六條 本廳並東京出張教務局ノ金錢物品出納等ノ正算ハ毎月課長係長立合成規ニ照準シ處分スヘシ中小教會所モ亦準之ヘキ事

第十七條 教會ノ會計ハ商社ノ會計ト區別アルヲ了得シ會計ヲ以テ教化ヲ犯ス可カラズ何ントナレバ則商社ノ會計ハ規則ニ成リ教會ノ會計ハ信仰ニ成ルモノナレハ容捨自ラ緩急アリ當務ノ者宜敷注意爲スヘキ事

右附錄條款改訂候事



更正黑住教々規雜則

目次

- 第一章
- 第二章
- 第三章
- 第四章
- 第五章
- 第六章
- 第七章
- 第八章

職制教務

派出章程

教導職并試補撰舉

教職并試補試驗

禁厭傳授并撰舉

教級授與附撰舉

教會教務所設置方法

講社結衆心得并說教場假設

更正黑住教々規雜則

第一章 職制教務

第一條 職制教務區別ノ事

第一節 本廳職制

管長 教旨及教務一切ノ下ヲ總轄シ正副総理ノ具申ニ由テ決判施行ス

教正 本教道統ノ旨ヲ奉シ管長ノ命令ニ由テ布教禁厭ノ下ヲ掌ル

講義 教正ヲ贊襄シ教旨ヲ宣布シ禁厭施行ノ下ヲ掌ル

訓導 所掌講義ニ同シ

試補 本教ナ一意ニ宗旨シ實行研究ノ二學旨ヲ練磨シ眞性ノ資質ヲ陶冶ス

補教 教務ヲ整理シ紛糾ヲ鎮靜シ本廳諸係等ノ長トナリ管長ノ命令ニ應シ是非

曲直ヲ論辨協贊ノ下ヲ掌ル

教屬 輔教ヲ贊襄シ廳務ヲ整頓シ或ハ係長トナリ諸長ニ對シ意見ヲ陳辨シ所講

巡視省察等ノ下ヲ掌ル

書記 輔教々屬ノ指揮ニ應シ諸記簿騰録淨寫等ノ下ヲ掌ル

第二節 中教會所職制



所員ハ所轄所講ニ關スル一切ノ教務ヲ管理分擔スルノ責ニ任ス

長 該所轄ノ教導職ヲ統率シ教法宣布禁厭施授布教々化ノ事ヲ掌リ尙所講ヲ巡視シ  
布教々務ノ隆替ヲ監檢シ規箴董督ノ教權ヲ有スヘシ

副長 二員全

其一 所轄ノ所講一切ノ教務ヲ所理シ及ヒ教導職并試補副教幹以上ノ良否ヲ具  
狀シ級外信徒並世話係長以下ノ進退ハ專行ノ後届出ツヘシ

其二 報賽神納ノ金穀物品ノ處分ハ附錄第六條ニ照準スヘシ若教費不足スル片  
ハ所講教導職ヘ協議シ適宜ノ方法ヲ立辨償スヘシ

但教導職職金ハ地方中教會所ヘ取纏メ本廳出納係ヘ送納スヘシ尤地方ノ便  
宜ニ據リ東京教務局ヘ送納スルモ妨ケナシトス

教督 一員城内名望アル人ヲ撰舉ス

所務ヲ監檢シ教費ヲ審査シ教域内所講ノ教務ニ參判シ褒貶黜陟ノ事ニ關シ副長  
ヲ翼贊シ教徒ヲ提起シ怠惰痴靡ノ弊ヲ匡救スル事ヲ要スヘシ

教幹 一員全

副長所掌ノ教務ヲ補ヒ事故アルキハ教務ヲ代理スヘシ

一等副教幹 人員不定

職務教幹ニ準スト云ヘテ專ラ教務ヲ整理シ教費ヲ斟酌シ結果ヲ專トスヘシ

二等副教幹 全上

職務一等副教幹ニ同シ以下五等迄同上

三等副教幹 全上

四等副教幹 全上

五等副教幹 全上

世話係長并係 人員人撰共地方適宜

副長教幹等ノ命ヲ受ケ教務ニ從事シ俗務ヲ取扱フヘシ

第三節 中教會所教務ハ分テ上下ノ二款ト爲ス其上款ハ副長ノ意見ヲ具シ(所長  
與齊)  
本廳ヘ伺テ經テ然ル後施行スルモノトス其下款ハ副長ノ意見ヲ以テ專行スルヲ  
得上下二款共ニ事務ノ舉ラサルハ副長其責ニ任ス

上款 其一 所講ノ教師職員ノ勤惰ヲ監檢シ褒貶黜陟スル事

其二 所講ヲ廢置移轉スル事

其三 所講諸般ノ方法ヲ釐正スル事



- 其四 教務ニ關スル費用ヲ募集スル事
- 其五 神納ノ集金ヲ以テ常費外ノ辨償ニ充ル事
- 其六 誠實篤志教義ニ盡力スルノ教徒ヲ昇級褒賞スル事
- 其七 過誤失錯アル教徒忠告意見ヲ用キサル者ヲ貶黜スル事
- 其八 所中ノ費額ヲ豫定スル事

下款

- 其九 教徒教義上ノ可否ヲ論辨スル者アラハ之ヲ判決スル事
- 其十 教徒ヲ集會シ教義ヲ講究スル事
- 其十一 教域内ノ教師布教ノ爲臨時巡廻ノ可否ヲ判決スル事
- 其十二 無免許ニテ禁厭施行ノ者ヲ停止スル事
- 其十三 既定ノ會日變更スル事

第四節 小教會所職制

所長ハ其教区内布教一切ノ責ニ任ズ

所長

一員 名望アル教師ヲ擔擧ス

- 其一 区内ノ教徒ヲ教化シ教法ヲ宣布シ且葬儀春秋祭式年祭等ノ禮式ヲ管理執行スヘシ

但葬祭ハ葬祭略式ニ據ラシムベシ佛葬祭ノ者ハ其宗規ニ任セ猥ニ干渉スヘカラス

- 其二 諸教職ト協議シ教徒ヲシテ頑陋ヲ開化セシメ風俗ヲ純善ナラシメ時々中教會所員ト會議シテ布教ノ便宜ヲ講究スヘシ

- 其三 神納ノ集金ハ教費ニ充テテ神文東修ハ中教會所ヘ納附シ成規ヲ履行スヘシ

- 其四 区内ノ諸願伺届書等ハ調査ヲ遂ゲ成規ニ照ラシ中教會所正副長ノ内ヘ奥書ヲ乞ヒ進達スヘシ

但特派巡廻教師巡教中ノ片ハ其副書ヲ要ス尤直管ハ所長(欠員ノトキハ副長)奥書ノ上進達スヘシ

副長

人員不定

副長

職務所長ニ準ス所長事故アル時ハ代理スルヲ得

勘査

一員 名望アル人置否ハ適宜ヲ擔擧ス

区内諸役員并教徒ノ向背奉教ノ厚薄布教ノ隆替ヲ視察シ教職教徒ノ勤怠ヲ具申シ兼テ黜陟褒貶ノ事ヲ要請スルノ責ニ任ズ

教幹以下配置ノ職務ハ總テ中教會所ノ職制ニ準ス尤副教幹ハ四等ニ止ムヘシ



第五節 小教會所ノ教務ハ中教會所ノ教務ヲ參酌スヘシ

但中教會所ノ域内廣遠ニシテ數十里ヲ隔テタル不便宜ノ地止ムヲ得ザレバ小教會所内ニ支部ヲ並置シ所長ニ支部長ヲ兼務セシメ區域ヲ限リ權限ヲ豫定シ中教會所ノ教務ヲ代辨セシムヘシ尤中教會所ト抵牾無キヲ要ス支部ヲ設置スルハ本教ノ内規ニシテ主省地方ヘ關係ナキモノトス

第六節 說教所職制ハ小教會所ニ同シ

長 一員 名望アル牧師ヲ撰舉ス

其一 部内ノ教職ト協和シ教徒ヲ教化シテ布教ヲ專務トスヘシ

其二 部内諸願伺届書等ノ進達方ハ小教會所長ノ職務ニ照準スヘシ

副長 人員不定 上

職務所長ニ準ズ所長事故アルキハ代理スルヲ得

教幹以下配置ノ職務ハ總テ中教會所ノ職制ニ準ス尤副教幹ハ三等ニ止ムヘシ

第七節 說教所ノ教務ハ中教會所ノ教務ヲ參酌スヘシ

講社說教場

講頭 一員 名望アル牧師ヲ撰舉ス

其一 社員ヘ教旨ヲ傳ヘ一致協和ノ事ヲ掌ルヘシ

其二 社員中諸願伺届書等ノ進達方ハ第四節其四ニ同シ

一等副講頭 一員 名望アル人ヲ撰舉ス

二等副講頭 一員 全

三等副講頭 一員 全

本員心得ハ講頭ニ準ズト雖正專ヲ教幹ノ心得ヲ以テ教用ヲ辨ズベシ講頭事故アルトキハ代理スルヲ得

世話掛長並係ノ配置取扱ハ正副講頭ノ意見ニ任ス

第二章 派出章程

第二條 派出ノ要領タルヤ教旨ヲ擴充シ聽衆ヲシテ本教ニ薰陶セシメ日常家職ニ勉強セン事ヲ要スベキ事

第三條 教職并試補各地方懇請ニ應シ派出スルハ能ク生々ノ妙用ヲ布教擴張ナスベキ事

第四條 各府縣下ヘ派出巡廻又ハ所講在勤共必ズ派出証書ヲ携帶シ其地方中教會所又ハ小教會說教所講社ヘ出頭シ該地方ノ請求ニ應シ巡廻說教爲スベキ事

但新ニ布教ノ諸縣ハ管長ヨリ該地方長官ヘ照會アルベシ巡廻在勤共無証書ニテハ布教スルヲ許サス故左ノ書式ニ因テ出願スベシ



願書式(用紙適宜)

派出(在勤)証御下附願

今般何府國何々所講へ年月日ヨリ何年月日迄在勤(又ハ何府國市町何ノ誰方へ年  
號月日ヨリ何年月日迄派出)懇請ノ所々巡廻布教致度御差闕無之候ハ、派出(在勤)  
証御下附被成下度此段奉願候也

年月日

黑任教管長姓名殿

何府華士族  
縣平民 何國市町何番邸居住

職名何之誰印

右出願之通相違無之ニ付與書進達仕候也

黑任教特派巡廻教師(又ハ)

又ハ何府國何々中教會所長(欠良ノ并ハ副長)

職名何之誰印

第五條 大教會所ヨリ説教ノ巡廻ハ各地方中小教會所并説教所講社等へ教規并細則  
ノ旨趣ヲ告諭シ教旨ノ要領訓誡七箇條教ノ五事道ノ莖等ノ心理ヲ丁寧反覆説明シ  
教旨ヲ徹底セシメ聽衆ヲシテ感悟信從セシム事ヲ要スベキ事

第六條 本廳ヨリノ巡廻ハ各府縣下中教會所會計檢査ノ爲メナレハ出納ノ整否人氣  
ノ向背ニ注意スベシ總テノ心得方ハ巡廻教職ノ所理ニ照準ナスベキ事

第七條 巡廻先ニ於テ自己ノ臆斷ヲ以テ他教派ノ教師又ハ事務員等へ對シ虛傲ノ慢  
言ヲ吐露シ管長無委任ノ事件猥ニ取扱フヘカラザル事

第八條 教規并細則等ヲ犯シ破門セシ者ト雖モ悔悟ノ實蹟二人以上ノ保証アラバ其  
事故詳細檢査ノ上係主任者二名ノ証印ヲ徵シ再神文ヲ入ルレハ協和故ノ如クニ隔  
心ナク同胞ノ交リヲ結ブヘキ事

第九條 教師巡廻中各所ニ於テ篤志信仰ノ者ヨリ本廳大教會所并東京假大教會所へ  
奉納ノ金錢物品等ハ其所ノ係主任者ノ明細書相添へ歸省又ハ便宜ノ節納附スヘシ  
夫々神納所ヨリ領収証ヲ下附ナスベキ事

但神納ノ物品ハ附録第六條ヲ參看スヘシ

第十條 派出在勤証書雛形左ノ如シ  
用紙奉書四ツ切

朱 第何號

證

大教會 自何月何日  
所割印 至何月何日

何府華士族  
縣平民 國區町  
郡村

職名何ノ誰



何府  
 右縣下 管長印  
 何々所講へ在勤懇請ノ所々巡廻差候事  
 年月日  
 黒任教管長姓名印

第十一條 教職汎出中ハ殊更品行方正ニシテ俗務ニ干渉セス專ラ布教ニ從事シ俗務ハ地方係員ノ處分ニ任セ猥褻傲慢ノ舉動ナスヘカラサル事

第十二條 汎出中所在宿料飲食并人車雇用賃等目辨ハ勿論ナレモ篤志ノ人辨償ハ其意ニ任スヘキ事

第十三條 巡廻中新ニ入門セント欲スル者アラハ能ク教旨ヲ開示シ神文捧呈ノ上入門式ヲ執行シ神文ハ束脩金ト共ニ地方役員ヲシテ其所管中教會所正副長又ハ巡廻教師ヲ經テ大教會所へ神納セシムヘキ事

但派出教師歸省ノ節便宜ヲ以テ直ニ大教會所へ神納スルモハ其旨詳細該地方ノ所講へ通知スルモノトス附錄第六條ヲ參看スヘシ

第十四條 中教會所無之各府縣下ノ神文ハ小教會說教所又ハ講社ニテ取扱フヘシ大教會所又ハ東京出張教務局へノ送致ハ前項ノ手數ニ因ルヘキ事

第十五條 說教ハ細則規約第六章ヲ參看シ說教ノ要領ニ基キ公布ノ大意ヲ辨シ教旨ヲ敷衍シテ敬神ノ實効相立ヘキ事

第十六條 禁厭ヲ免許ナスヘキ篤志ノ教徒之アル時ハ成規ニ因テ傳授ノ準備ナスヘキ事

第十七條 巡廻地方禁厭免許ノ者ヲ呼出シ授受ノ次第又ハ其爲人ヲ取調べ靈驗ノ有無ヲ糺シ置キ其舉動歸省ノ上具狀ナスヘキ事

但閣キ難キ所業有之モノハ免許印鑑預リ歸ルヘシ

第十八條 教導職并試補教徒等ノ勤惰品行ヲ諮詢探知シ本教ノ隆否尊信ノ厚薄等注意見聞致シ置キ歸省ノ上具狀ナスヘキ事

第十九條 滿期歸省ノ節ハ巡廻日誌相添へ派出又ハ在勤証返納ナスヘキ事

第二十條 滿期後尙勤績ヲ要スルモハ其旨詳記シ第四條ノ書式ヲ參酌シ更ニ延期ノ証書下渡方出願ナスヘキ事

但十日以内ノ延期ハ出願ニ及バス速ニ其旨詳細開申スベシ

第三章 教導職并試補撰舉

第二十一條 第四章第二十八條第三科以上合格ノ資力アル者ト雖モ最初ハ必ス教導職試補へ具狀スヘキ事



但書式左ノ如シ

第一書式(用紙半紙壹通)

教導職試補具狀

何府縣華士何區何町何番地居住

(附籍又ハ寄留家族等ハ其旨詳記スベシ)

戶主農(工商ハ其職業ヲ詳記スベシ)又ハ無職業

教級名何ノ誰

年號月日生

當何月何十年何ヶ月

學術(皇學ヲ主トス其他長所ヲ記スベシ)

性行(各自ノ性質ヲ視察監識シテ簡單ニ摘載スベシ)

履歷年月日神文捧呈

、、、何々信徒

、、、禁厭免許

、、、所講役名

(其他維新以後公邊ニ係ル事件并教内ニ關スル履歷總テ無洩様詳細前項ニ

照準順次列記スヘシ)

右之者(共)教義篤志教導職志願ニ付試験候處(何レモ)及第致候間試補御申付相成  
度勿論平素ノ品行端正ニシテ他ニ不都合無之候條別紙保証書并試験及第書共相添  
此段奉願候也

黒任教何々中教會所長(次長ノ共)

又ハ特派巡廻教師(又ハ補)

年月日

職名何、、、印

○中教會所未設特派教師未派遣ノ府縣并直管内ヨリ具狀スル分ハ本文中試験候處  
及第致候間ノ九文字ヲ御試験ノ上ノ五文字ニ替ヘ尙并試験及第書共ノ七文字ヲ  
刪除スヘシ

何府何國何區何町又ハ直管何國

何々小教會所何々教所長又ハ何々講社講師

職名(教級名)何之誰印

黒任教管長黒住宗敬殿

第二書式(用紙適宜)

保証書

(肩書詳細第一書式ニ準ス)



右教法篤志ノ者ニテ終身教義ニ從事致度志願相違無之候仍之我等保証ニ相立候上  
 ハ本人身上ノ義ハ一切私共引受若不合ノ廉有之候ハ、屹度其責負擔可仕候爲其  
 保証人連署仕候也

年月日

(肩書詳細全上)

保証人親戚(又ハ)職名(教級)何之誰印

(、、、、)

(、、、、)

學師(又ハ)職名何之誰印

(學友)級名

第三書式(用紙適宜)

試驗及第書

甲(又ハ乙丙丁)

(肩書詳細第一書式ニ準ス)

教級名何之誰

第四科

素讀

正講

說教

御小傳

七ヶ條

實施靈驗何々

(以下何名アルモ列記方向上)

右何某(外何名)試驗候處(何レモ)朱書所標ノ通及第致シ候也

黑住教何々中教會所長(又ハ)副長

又ハ特派巡廻教師(補)

年月日

黑住教管長姓名殿

職名何之誰印

○朱書所標ハ左標ニ基キ區別スヘシ尤表中ノ數字ハ誤點ノ數ナリ

教導職試驗補試驗及第區別表

素讀	甲	乙	丙	丁
正講	○	○	○	○
說教	○	○	○	○

年號月日 當何月何十何年何ヶ月生



第二十二條 教導職試補ノ者第四章第二十八條第三科及第ノ者ハ新補(少講員以下)撰擧ナ  
スヘキ事

但撰擧狀左ノ如シ  
撰擧狀(用紙適宜)

朱書  
何々々(明治何年何月試補拜命)  
(肩書試補具狀書式中第一書式ニ同シ)

右之者(共)試驗課程第三科試驗候處(何レモ)及第致候ニ付朱書所標之通新補被成  
下度試驗及第書相添此段奉願候也  
年號 月 日 生  
當何月何年何ヶ月

黑任教何々中教會所長(次員ノ并ハ副長)  
又ハ特派巡廻教師(又ハ補)

年 月 日  
職 名 何 之 誰 印  
中教會所未設巡廻教師未派遣ノ府縣并直管内ヨリ撰擧スル并ハ本文中試驗候  
處及第致候ニ付ノ十文字ヲ御試驗ノ上ノ五文字ニ替ヘ尙試驗及第書相添ノ七  
文字ヲ删除スヘシ

何府何國何市何郡又ハ直管何國

何々小教會所長又ハ何々講社講頭

年 月 日  
職 名 (教級名) 何 之 誰 印  
黑任教管長姓名殿

○試驗及第書ハ試補具狀書式中第三書式ニ準シ認ムヘシ  
第二十三條 第四章第二十八條第三科試驗濟ノ者少講員以下(訓導敎權訓導敎)ノ職  
ニ在ル者昇級ヲ要スル分ハ滿一ヶ年ヲ經過シテ昇級願ヲ差出スヘキ事  
但願書式左ノ如シ  
教導職昇級願(用紙適宜)

朱書  
何講員(明治何年何月當職拜命)  
(肩書試補具狀書式中第一書式ニ同シ)  
訓導(又ハ補)何 之 誰

右之者(共)朱書所標當器ノ者ニ付昇級被成下度此段奉願候也  
年號 月 日 生  
當何月何年何ヶ月  
黑任教何々中教會所長(次員ノ并ハ副長)  
又特派巡廻教師(又ハ補)

職 名 何 之 誰 印  
何府何國何市何郡又ハ直管何國



何々小教會所長又ハ何々講社講師

職名(教級名)何之誰印

黑住教管長姓名殿

第四章 教導職并試補試驗

第二十四條 教導職并試補試驗ハ大教會所傳習係又ハ特派巡廻教師ニテ負擔ナス

但中教會所既設ノ地方ハ該所正副長ニテ負擔スト雖特派教師巡教ノ際ハ負擔スル事ヲ得ス中教會所未設ノ地方ハ本文ノ通り

第二十五條 出張東京教務局最寄志願者ノ試驗ハ當分教務局事務取扱ニテ負擔ナス

第二十六條 各地方ニ於テ試驗志願ノ教徒アラハ其旨申出ツヘシ第二十四條ノ手數ヲ經テ係員派出試驗ナスヘキ事

第二十七條 試驗係員派出ノ節ハ重立タル教導職(教導職無之)ニ就キ本人教義ニ熱心尊信ノ厚薄及ヒ品行ノ正否ヲ監査シ而テ後試驗ノ手數ニ及フヘキ事

第二十八條 試驗ノ順次ハ左ニ設タル試驗課程ニ就キ其科目ニ從ヒ合格ノモノヲ採用ナスヘキ事

試驗課程

第一科

素讀二十條古事記ノ中一條ノ誤讀四點ヲ減ス  
正講四回 古事記教祖小傳五問 明辨一問ニ二点ヲ與フ  
說教三座 本教ノ大旨神德靈驗  
作文三題 探題二十題ノ内及祝詞祭文等ヲ時間ヲ期シ本案毎題ノ條理明晰ナルモノハ二題ニ六點以上拾点ヲ與フ否ナルモノハ五點以下二点ヲ減ス

第二科

素讀二十條祝詞式ノ中一條ノ誤讀三點ヲ減ス  
正講三回 祝詞式七ヶ條 三問 明辨一問ニ二点ヲ與フ  
說教二座 本教ノ大旨神人不二ノ說  
作文二題 探題二十題ノ内ヲ時間ヲ期シ本案毎題ノ條理明晰ナルモノハ一題ニ六點以上拾点ヲ與フ否ナルモノハ五點以下二点ヲ減ス

第三科

素讀十條誠ノ心傳一條ノ誤讀二点ヲ減ス  
正講二回 七ヶ條 二問 明辨三點ヲ與フ  
說教一座 皇國々体ノ說

第四科



素讀十條教祖小傳一條ノ誤讀一點ヲ減ス  
通讀三點ヲ與フ  
正講一回七ヶ條隨意問一問ニ四點ヲ與フ  
誤解一問ニ一點ヲ減ス

第二十九條 試驗課程中第一科合格ノモノハ六級以上第二科合格ノモノハ十級以上

第三科合格ノモノハ十四級以上第四科合格ノモノハ教導職試験ニ撰擧ナスヘキ事  
但第一科合格ノ者ト雖モ最初ノ就職ハ試験ニ撰擧ス特撰ハ試験ヲ要セサルトモ  
アルヘシ

第二十條 試驗課程中第一第二ノ兩科ハ大教會所ニ於テ管長(又ハ代理)臨席ノ上試験ナ  
スベキ事

但東京假大教會所モ準之

第二十一條 十六年六月達第十六號ノ諸項ニ觸レ或ハ窃盜有夫親族姦逃亡賭博其他  
破廉耻罪ヲ犯シ受刑ノモノハ撰擧試験ノ資格ナキモノトナスヘキ事  
但追テ悔悟ノ實蹟アルモノハ此限ニアラス若具狀スルモノアラハ刑名宣告文ノ  
寫相添ヘキモノトス

十六號ノ參考酒色ニ沈溺シ利欲ニ迷ヒ布教ニ寸功ナク醜金或ハ各所教費資金ノ納  
期ヲ怠ルノ類ナリ

第三十二條 大教會所試験日ハ毎月七ノ日ヲ以テ定日トシ午前九時ヨリ始ムヘキ  
事

但東京假大教會所試験定日モ本文ノ通り

第三十三條 試験志願ノモノハ定日午前第八時迄ニ左ノ雛形ノ通り願書相認ノ差出  
スヘキ事

但各地方ヨリ試験係ノ派出ヲ乞フ片ハ試験願書ハ其節取纏メ置傳習係(出張東京教  
務局寄)  
務取扱(ハ郵送スヘシ)

御試験願

何府華士族 何國何市何町何番地居住

戶主(何某長男又ハ附籍)

教級名 何之 誰

年號月日生  
當何月何年何ヶ月

教導職志願ニ付御試験相願候也

年月日

黒住教

大教會所傳習係(又ハ出張東京教  
務局事務取扱)御中

右 何之 誰印



前書之通相違無之ニ付奥書進達致候也

何々小教會所長又ハ何々講社教頭

何職名何之誰印

第三十四條 事故有之大教會所(又ハ東京假大教會所)へ出頭難致者試験係ノ派出チ乞フモ以テ報知スベキ事(教會所ハ傳習係東京假大)ノ都合ヲ以テ時日ヲ定メ派出スベキ場所ヲ前

但一地方十名以上ニ非レバ派出セス尤場所ハ志願人居住ノ中央ヲ見込ニ便宜ノ所ニ定ムベシ

第三十五條 本章第二十八條第一第二ノ兩科ハ大教會所ニ於テ管長(又ハ代理)臨席ノ上試験ヲ要スル義ニ付該科合格ノ者ト見込ム者アラバ其旨開申ナスベキ事但其書式左ノ如シ(幾人アルモ認メ方同一以下皆做之)御試験之義開申(用紙適宜)

何府華土族何國何市何町何番地居住

(附籍又ハ寄留家族等ハ其旨詳記スベシ)

戶主農工商ハ其職業ヲ詳記スベシ又ハ無職業

何講義何之誰

明治何年何月當職拜命

右之者(共)試験課程第一科(又ハ第二科)合格ノ資力アルモノト見込候ニ付御試験ノ上可然御辭令被成下度素ヨリ教法熱心教義勉勵衆教徒ノ推舉モ不勘候條此段開申仕候也

年號 月 日 生

當何月何年何ヶ月

黒住教何々中教會所長(又ハ副長)

又ハ特派巡廻教師(又ハ補)

年月日

職名何之誰印

何府何國何市何町又ハ直管何國

何々小教會所長又ハ何々講社講頭

職名(教級名)何之誰印

黒住教管長姓名殿

第五章 禁厭傳授附撰舉

第三十六條 新ニ教徒へ禁厭ヲ授與スルニハ先ツ本人年齢二十五歳以上ノ者ニシテ神文捧呈以後滿一ケ年ヲ經過シ且ツ級外一等信徒以上ノ地位ニ進ミ(教導職試補以上ノ教師へハ年齢此限ニ非ス)斯道ノ教旨ヲ研究シ禁厭靈妙ノ神理ヲ默識シ品行正敷地方衆庶ノ人望アリ所講ノ異存無キ者ニ限り書式ノ通り願書差出サセ成規



ノ通り履行ノ上相傳免許ノ印鑑ヲ授與スベキ事  
 但神文捧呈後一ケ年未滿ト雖正品行方正ニシテ教旨了得妙理ニ通セシモノハ級  
 外一等級以上ノ地位ニ進メ且ツ該理由テ詳記シタル特別願書ヲ差出サセ詮議ノ上  
 出格ニ相傳スルコトアルベシ尙各地方ニ於テ代相傳ヲ受クル者ハ追テ大教會所  
 へ參拜ノ節詞書ノ與へ宗家相傳ノ證ヲ受クルモノトス  
 ○願書式(用紙適宜正副一通)  
 禁厭御免許願

府華士族 何國何市何町何番地居住  
 何縣平民

(附籍寄留家族等ハ其旨詳記スベシ)

戶主農(工商ハ其職業ヲ詳記スベシ)又ハ無職業

教級(又ハ)名何之誰

年號月日生  
 當何月何年何ケ月

右之者年號月日神文捧呈爾來本教々旨研精尊信不撓品行方正ニシテ地方教徒ノ推  
 薦少ナカラザルニ付今般禁厭御免許相願度勿論御成規堅ク相守可申候ハ相違無御  
 座候條保証連署ヲ以テ此段奉願候也  
 (肩書詳細)

明治年月日

親族 何之誰印

(、、、、)

學師(又ハ)教師(又ハ)何之誰印

黒住教管長姓名殿

○各地方直管共其所講主幹ノ役員ニ於テハ此處へ與書スルノ例規ノ通り  
 第二十七條 特派教師巡廻ノ節前條ノ願書ヲ差出スルハ更ニ調査シ不都合無之キハ  
 直ニ指令成規ノ手順ヲ爲シ代相傳執行ノ上免許印鑑授與スベキ事  
 第二十八條 禁厭教徒改姓名又ハ結婚離縁等ニテ變姓轉任等ハ勿論印鑑紛失燒失盜  
 難等ノ節モ其都度理由詳記ノ上書替又ハ再授ノ義本人ヨリ出願ナスベキ事  
 第二十九條 禁厭教徒死亡ノ節ハ印鑑相添親族又ハ所講役員等ヨリ成規ノ通り本部  
 へ届出ツヘキ事

第六章 教級授與附撰舉

第四十條 教級ハ其尊信手厚ク篤行教導職ト同ジキモ職業ノ都合ニ依リ教職ニ列ス  
 ル能ハザル者へ地方ノ推薦又ハ本廳(又ハ中)ノ特舉ニ因リ之ヲ授與シ以テ教内教職  
 同等ノ地位ヲ得セシムベキ事  
 第四十一條 教級ノ名稱ヲ信教信徒級外ト區別スル事



一 信教ヲ正權大中少及一級乃至四級ノ十等ニ別ツ

二 信徒ヲ一級乃至四級並級外一等二等ノ六等ニ別ツ

第四十二條 初等即チ級外二等信徒ハ神文捧呈ノ後品行正敷尊信確實ト見認ルモノヘハ直ニ授與ナスベキ事

但年齢七十歳以上ノ者ヘハ地方ノ推薦ニ因リ初等直ニ級外一等ヲ授與スルハ此限ニアラス(願書ハ第一書式ニ照準ナスベシ)

第四十三條 級外一等以上一級信徒迄ハ各自其當級授與ノ後滿一ケ年ヲ經過シ益信仰不撓教義研精布教盡力ノ者ヘ授與ナスベキ事

但本人在任地方又ハ在勤ノ所講部内ニ於テ禁厭教徒ニ乏シキ箇所ハ其資格アル者ニ限リ本條ニ拘ラズ級外一等信徒ノ証標ヲ授與シ以テ禁厭免許ヲ得セシムル事アルベシ(第二第二第四書式ヲ參看照準スベシ)

第四十四條 神文捧呈以後既ニ五ケ年以上ヲ經過シ奉教尊信確乎不撓ノ輩ヘハ初等ヨリ直ニ超過シ級内信徒(四級信徒以上ヲ云以下倣之)ヲ授與シ或ハ第四十二條ノ年限ニ拘ラズ級外一等信徒ヲ授與ナスベキ事(第五書式ニ照準ナスベシ)

第四十五條 教級授與以來尊信不撓教義研精布教盡力勘カラザルモ昇等遲延ニシテ數年ヲ經過スル者ヘハ一二等ヲ超テ地方推薦又ハ特舉ニ因リ授與ナスベキ事(第

二 第二書式ヲ參看スベシ)

第四十六條 四級信教以上ハ二ケ年權少信教以上ハ三ケ年何レモ毎等間當級授與以來年月經過ノ後授與ナスベキ事

但非常功勞アリテ特舉ニ係ル者ハ此限ニアラス  
第一書式(用紙適宜一通以下各書式準之)

教 級 願

何府華土族 何國何郡何町何番地 居住

(附籍寄留家族等ハ其旨詳記スヘシ)

戶主(工務ハ其職業ヲ詳記スベシ)又ハ無職業

何 之 誰

年 號 月 日 生

朱書 級外二等信徒ヘ 年號月日 神文捧呈

右之者(共)神文捧呈以來品行正敷尊信勉勵屬罷在候間朱書所標之通御授與相成度此段相願候也

年 號 月 日 何府華土族 何國何郡何町何番地 居住 師職名又ハ教 何之誰印

黒住教々務課御中



又ハ

中教會所部内ハ

黒住教何々中教會所

御 中

右奥書ハ所管所請ノ主幹役員ノ所掌タルヘシ以下各書式共直管内ハ右同斷其他ハ各府縣中教會所正副長又ハ特派教師ニテ奥書スヘシ

第二書式

教級昇等願(第二書式以下標題準之)

朱書

級外一等信徒年號月日當級拜受

(肩書詳記第一書式ニ準ス)

級外二等信徒

何之誰年號月日生

右之者(共)當級拜受以來信仰不撓教義研精布教盡力ノ廉モ不少候ニ付朱書所標之通昇等御授與相成度此段相願候也

(肩書詳記)

年號月日

宛ハ第一書式ニ同シ

師職名又ハ教級名

何之誰印

第三書式

朱書

何級信徒年號月日當級拜受

(肩書第一書式ニ準ス)

級外一等信徒

何之誰年號月日生

右之者(共)當級拜受以來益信仰不撓教義研精布教盡力不淺候ニ付朱書所標之通昇等御授與被成下度此段相願候也

(肩書詳記)

年號月日

黒住教々務課

御 中

師職名又ハ教級名

何之誰印

第四書式

(肩書第一書式ニ準ス)

級外一等信徒年號月日當級拜受

級外二等信徒

何之誰年號月日生

右之者(共)當級拜受以來日淺シト雖凡神徳靈驗ニ感佩致シ教旨研究日夜勉勵罷在候然ル處當地方(部内)ニ於テ禁厭教徒ニ乏シク信者ノ招請ニ差支旁以現下禁厭御



免許出願致度見込モ有之候ニ付朱書所標ノ通昇級御授與相成度此段相願候也

(肩書詳記)

師職名又ハ教名 何之誰印

年號月日  
宛ハ第一書式ニ同シ  
第五書式

朱書

何級信徒

年號月日  
當級拜受  
年月日  
神文捧呈  
禁厭免許

(肩書第一書式ニ準ス)

級外二等信徒

何之誰

年號月日  
當何月何年何ヶ月

朱書

何級信徒

(肩書同上)

右之者(共)神文捧呈(續テ禁厭御免許)以來品行正敷當級拜受爾後益教義勉勵尊信實効亦不少候ニ付朱書所標之通起遷昇等御授令被成下度此段相願候也(級外二等ヨリ同一等へ昇等ノ節ハ本文圈點ノ六字ヲ省キ被成下度ノ四字ヲ相成度ノ三字ニ換へ尙宛所ハ第一書式ニ準ス)

(肩書詳記)

年月日

黒住教々務課

御 中

師

印

第六書式

順次昇等起遷共手續書ニ基キ各書式ニ準シテ出願スヘシト雖凡末文ニ相願ヲ奉願ト換へ宛所ハ左ノ通り

△所標一級信徒迄ハ

黒住教本廳

御 中

△同權少信教以上ハ

黒住教管長姓名殿

第七章 教會教務所設置方法

第四十七條

地方結衆ノ講社(講社組織並就教場ノ假設ノ手續ハ第八章ヲ參看スベシ)増加スルトキハ説教所設置ナス

ヘキ事

但所講設置スルトキハ左案ニ照準シ東京最寄ハ出張東京教務局(以下準之)へ出願スヘシ







但通常ノ教費ハ時々ノ神納物ヲ以テ支辨シ若シ不足ヲ生スルハ預ケ金ノ  
利子ニテ補充致候

(又ハ他ノ方法等議定ノ條項ヲ詳記スヘシ)

今般說教所設置出願ニ付右ノ通各講中議定候上ハ將來嚴重ニ維持可仕勿論教費等  
決テ御厄介相願申問敷候仍テ爲後日連署仕置候也

何々講社講頭

明治年月日

同 副講頭

職名 何之 誰印

信徒惣代

職名 何之 誰印

、、、、

、、、、

印

印

右實地調査仕候處相違無之候也

本願書へ奥書ノ者署名スヘシ

一本應ニ於テハ時宜ニ依リ管長ヨリ該地方廳衙へ差支(地所 建物)ノ有無ヲ照會セラ

レ回答濟ノ上聞届ケテ

但無奥書ノ分ハ時宜ニ據リ本廳ヨリ役員出張實地調査ノ上本願へ指令スル  
事アルヘシ

第四十八條 右ノ願書差出シ差支之ナキニ於テハ管長ヨリ左ノ指令ニ相成候事

願之趣聞届別紙副申書下附候條地方廳へ出願スヘシ

但許可ノ上ハ寫ヲ以テ速ニ届出ツヘシ

一右ノ指令ヲ得テ左ノ書式ニ倣ヒ地方廳衙へ願出ヘシ

但出願人ハ中教會所(正)長又ハ特派教師ノ内ニテ取扱フヘキモノトス

黒住教說教所設置願

當縣下何國何市何町何番地居住何ノ誰居宅(又ハ何ノ誰所持ノ何區何町何番地ニ  
有之建家)ヲ借受豫テ假設有之候說教場ノ義追々布教隆昌結果増加致候ニ就テハ今  
般永續維持ノ方法議定候ニ付(別紙圖面ノ通り何郡(市)何村(町)何番地居住何之  
誰所持地借受說教所新築)何々說教所下相唱申度速ニ御開届被成下度別紙繪圖面  
相添連署ヲ以テ此段奉願候也

肩書、、、、

年號月日

共有地主總代(又ハ 持主)何之誰印



教徒惣代職名 何之誰印  
黑住教何々中教會所(正)長  
又ハ特派巡廻教師(補)

擔任教師職名 何之誰印

府縣長官又ハ郡區長殿宛

第四十九條 右地方廳衙門届濟ノ上ハ指令寫ヲ以テ速ニ本廳へ届出ツベシ此手數終  
ラハ開講式執行ナスベキ事

第五十條 前條手數濟ノ上ハ開講並ニ説教ノ定日及ヒ稽古講義等ノ事ヲ左案ニ照シ  
届置ベキ事

黑住教説教所開講並説教定日御届

御管下何郡市(郡市役所ナレバ其御部内)何村何番地へ設立セル本教何々説教所本  
月何日開講爾後毎月何ノ日ヲ以テ教導職説教ノ定日ト致シ尙晝夜共臨時稽古講義  
爲致候間此段及御届候也

黑住教何々中教會所(正)長  
又ハ特派巡廻教師(補)

年月日 職名 何之誰印

府縣知事又ハ郡區長何ノ誰殿

同上文

警察署宛

第五十一條 新ニ説教所ヲ設置シ管長開届ノ上ハ部内協議投票ヲ以テ所長以下ノ役  
員ヲ撰定シ左ノ書式ニ倣ヒ例規之通教徒總代連署ノ願書差出認可ヲ乞フベキ事  
役員願書式

何々説教所役員御認可願

(肩書詳記)

朱書 所長 職名 何之誰

年 號 月 日 生  
當何月何年何ヶ月

以下列記方準之

右ハ今般附屬教徒協議ノ上投票ヲ以テ撰定勿論篤志誠實品行正敷者ニ御座候條朱  
書所標之通り御認可被成下度連署ヲ以此段奉願(世話係長以下ノ)候也

(住所肩書)

何々説教所教徒惣代



年號月日

職名 何之 誰印

(二名以上連署スヘシ)

宛名ハ細則附錄第六條ヲ參看記載スヘシ

第五十二條

說教所布教隆昌教徒隆起ニ至ラバ教徒ト協議ノ上從來ノ說教所ヲ(或ハ適宜ノ場所ヘ新築又ハ移轉)小教會所ヲ設置スベキ事

但出願ノ書式左ノ如シ(新築又ハ移轉モ準之)

小教會所設置願

當說教所ノ儀退々布教隆盛教徒増加維持確定候ニ付今般各教徒協議ノ上所々小教會所ト改稱致シ度即別紙永續維持方法書相添進達仕候條速ニ御開届被成下度此段奉願候也

府(縣)國郡(市)又ハ直管何國郡(區)

何々說教所長

年月日

職名 何之 誰印

(肩書詳細)

教徒惣代 何之 誰印

黒任教管長姓名宛

一 與書指令ノ手數ハ第四十七條ニ準ス永續維持方法書式ハ左ノ通り

一 永續維持方法書式

何々小教會所永續維持方法書

一 積金(貳百圓以上)

但通常ノ教費ハ時々ノ神納物ヲ以テ支辨シ若シ不足ヲ生スルキハ預ケ金ノ利子ニテ補充致候

(又ハ他ノ方法等確定ノ條項ヲ詳記スヘシ)

今般小教會所設置出願ニ付右之通り各講中議定ノ上確立將來嚴重ニ維持可任勿論教費等決テ御厄介相願申間敷候仍テ預リ證相添爲後日連署仕置候也

何々說教所長

職名 何之 誰印

同 副長

同附屬信徒惣代

何之 誰印







第五十七條

講社ニ入ラント欲スル者ハ結衆簿ヘ記名調印ノ上便宜ヲ以テ入社式執  
行ナスヘキ事  
但入社式左ノ如シ

先 祓式ヲ執行スヘシ

但祭式ノ次第常ノ如シ

次 神床ヘ供物ヲ獻スヘシ

但供物ハ 神酒 神饌 神饌ハ洗米甘塩 淨水 鏡餅 生魚 乾魚  
海草 野菜 時菓 總テ時宜ニ隨フベシ

次 神言ヲ奏スヘシ

次 教導職首座ノ者祝詞ヲ奏スヘシ

祝詞

維明治何年何月何日乎生日乃足日止撰定天掛卷毛恐支天照大御神乃大前及天  
神地祇入百万神等教祖宗忠神乃御前爾微音職名何某慎美敬比畏美畏毛白左今  
日乎吉日止撰定互此乃講社爾氣含竹入組集會諸人等波斯道乃誠程世爾難有支  
物波有止字豆乃幣帛乎(各毛各毛)進留狀乎平久安介所聞食豆堅磐爾常磐爾守  
給比幸反給反惶美々美白須

第五十八條

社員ニシテ神文未捧呈ノ者教旨ヲ了得シ入門センヲ欲セバ良日ヲ撰  
ミ教師或ハ先輩ニ附テ神文ヲ捧呈ナサシムヘキ事  
但入門式左ノ如シ

先 祓式ヲ執行スヘシ

但祭式ノ次第常ノ如シ

次 神床ヘ供物ヲ獻ズヘシ

但供物ハ 神酒 神饌 神饌ハ前條ニ同シ時宜ニ隨フヘシ

次 神言ヲ奏スヘシ

次 教師(或ハ先輩)祝詞ヲ奏スヘシ

祝詞

掛卷毛畏支天照大御神乃大前及八百万神等教祖宗忠神乃御前爾微音職名伊今日  
乎生日乃足日止撰定互慎美敬比畏美畏毛白左靈幸布神代乃道乎履美行閉今日毛神代止  
教乃祖神乃教開給比傳開給比大御教乎欽美慕比奉留誰某乎始米許々良乃人等神文乎  
捧計自今日始豆身爾心爾惟神乃教乃隨爾勤美勉留真清明支心乎相宇豆奈比給比神  
習爾習米給開止字豆乃幣帛捧持豆(各毛各毛)額突奉留狀乎平久安介聞食豆夜乃守日  
乃護爾衛利惠美幸開給止畏美畏毛白須



第五十九條

講社員ハ時々集會シテ教義ヲ談スヘキ事  
但教徒自宅ニテ説教セント欲スル時ハ各所(正)長(或ハ近傍在勤教師)ヘ宛左案  
ノ手續ヲ經テ所理スベシ尤臨時説教モ準之ト雖凡地方慣習アリ一概ニ泥ムヘカ  
ラス

其一

私儀豫テ本教尊信罷在毎度説教聽聞感佩仕候就テハ自今自宅ヘ御招請申候間何卒  
毎月何度御出席ニテ説教禁厭御施授被成下度尤御承諾ノ上ハ所轄市役所并警察  
(分)署ヘ相届申度此段相願候也

年號月日

何縣下何國何市何町何番地居住

黒住 教

何 姓 名 印

職名何ノ誰殿

書面ノ趣承置候條(何ノ日)派出致申スヘキ事

年 月 日

職 姓 名 印

其二

私儀年來黒住教尊信罷在候ニ付爾後毎月何ノ日本教々師招請ノ上説教施行ノ義依

願致候條此段豫テ御届申上候也

何市何町何番地居住

年 月 日

何 姓 名 印

何々市郡長宛

其三

同文言

警察署宛

第六十條 講社組織説教場假設ノ手續ハ左ノ書式ニ倣ヒ手數ナスヘキ事

第一書式

講社組立願

今般當地方本教信仰ノ者協議ノ上講社結衆仕候間何々講社ト相唱ヘ候義御聞届被  
成下度則別冊結衆簿相添此段奉願候也

府縣、、、、

年 號 月 日

信者惣代 姓 名 印

教徒惣代 姓 名 印



黒住教管長宛

前書之通相違無之候ニ付與書進達仕候也

何々教會所(正)長 職 姓 名 印  
教會説教所未設ノ地方ハ奥書ニ及バスト雖モ特派教師巡教ノ節ハ奥書スル丁モ  
アルヘシ

第二書式

黒住教何々講社説教場假設願

今般當縣下何國何市何町何番地居住何ノ誰居宅(又ハ何ノ誰控家)借受本教何々講  
社説教場ヲ假設シ毎月何ノ日説教執行益々講中結成追々説教所開設候様仕度則別  
紙繪圖面相添進達仕候間速ニ御許可被成下度此段奉願候也

肩書、

年月日

家主何之誰印

何々講社教徒惣代 何之誰印

黒住教管長宛

奥書手數ハ第一書式ノ通り

第三書式

黒住教説教場假設願

今般當縣下何國何郡(市)何村(町)何番地居住何ノ誰居宅(又ハ何ノ誰控家)借受説  
教場ヲ假設シ何々講社説教場ト相唱申度速ニ御聞届被成下度別紙繪圖面相添此段  
進署ヲ以テ奉願候也

肩書詳記

年月日

家主何之誰印

黒住教何々教會所(正)長 職 名 何 之 誰印

府縣知事又ハ郡市長姓名殿

○繪圖面ハ説教所ノ分ニ倣ヒ認ムヘシ尤結衆簿ハ左式ノ通り



結衆簿冊書式

○上表紙書式

明治年月日調

何々講社結衆簿ノ一

何府縣國郡市

何町村、、、、合何ヶ町村

○人名列記ノ書式

神祭式(或ハ何宗)

年號月日神文捧呈

何縣何市何町番地居住

何族ハ平民農(或ハ何商工)

戸主何

之誰印  
年月日生

家族

父

母

妻

長男(女)

二男(女)

合計何千何百人内

戸主何百人  
家族何百人

第六十一條 前條手數濟ノ上ハ左案ノ門標ヲ掲ケ説教ナスヘキ事

長二尺

黒住教

何々講社假説教場

第六十二條 講社ニ入ル者ヘハ入社式執行ノ後護身ノ守札授與ナスヘキ事

但入社セシ者ヘハ其講頭ヨリ左ノ雜形ニ照準シ門標ヲ授ケ以テ社員タルノ證トスヘシ



木札 長五寸五分

表  
註  
白字教  
教 黒住 教會

第何號  
何府族籍國郡區何番地居住  
何  
年月日入社 年月日生

百四十二

第六十三條 講社ニハ正副講頭世話係ヲ置クヘキ事  
但撰擧方ハ第一章第一條第七節并附錄第五條ヲ參看スヘシ  
第六十四條 講社員ハ正副講頭ノ差圖ヲ能ク相守社則ヲ重シ互ニ睦敷相親ミ地方ノ  
慣習善良ナラシムルニ最注意ナスヘキ事  
但役員自然不當ノ差圖ト見込ム時ハ穩和純良ノ心ヲ以テ社中ニ議シ教徒多分ノ  
意見ヲ述テ忠告スヘシ  
第六十五條 社中多人數トナラハ何々講社第一番講第二番講ト適宜ニ組合ヲ分チ尙  
其組合三組四組モ増加セバ又之ヲ合シテ一團トナシ布教傳道ノ場所ヲ設ケ説教所  
ト爲スヘキ事  
但説教所ノ設置ハ第七章ヲ參看スヘシ

黒住教々師檢定條規  
廳令第一號

特派巡廻教師全補  
各 所 講

本年五月内務省訓令第九號ニ據リ本教々師檢定條規別冊之通制定認可相成候條自  
今教師ノ任命ハ總テ本條規及ヒ全細則ニ準做取扱フベシ  
追テ地方係員等ハ不日薦任ノ上告示スベシ  
右相達候事  
明治廿八年十月

黒住教管長 黒住宗敬

黒住教々師檢定條規

百四十三



黑住教々師檢定條規御認可伺

本年五月第九號ノ訓令ニ基キ本教々師檢定條規別冊之通制定致候條至急御認可相成度此段相伺候也

追而本檢定條規御認可之上ハ全取扱細則トシテ別紙教内ニ發布致度御參考ノ爲一本相添置候也

明治廿八年九月十六日

黑住教管長 黑住宗敬

内務大臣子爵野村靖殿

(指令朱書)

内務省指令甲第五八號

割 印

本年九月十六日付伺教師檢定條規認可ス

明治廿八年十月二日

内務大臣子爵野村靖

印



### 黒住教々師檢定條規

#### 第一章 檢定

第一條 教規第二章第五條第一項及教規細則附錄第六條ニ掲グル教師ノ分限並等級ハ本條規ニ據リ檢定委員ノ檢定ニ合格シタルモノニ非レハ之ヲ授與セス

第二條 左項ノ一ニ該當スルモノハ教師タル事ヲ得ス

一 瘋癲白痴瘡腫ノ者

二 年齡滿二十歳以下ノ者

三 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタルモノ

四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者復權ヲ得テ一ケ年ヲ經過セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ若クハ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者

五 本教及他教派ニ於テ懲戒免職ノ處分ヲ受ケ改心ノ實ヲ表セサル者若クハ改心ノ實ヲ表シニケ年ヲ經過セサル者

第三條 檢定ヲ分テ左ノ二種トス

第一種

試驗

#### 第二種 認定

第四條 第一種ノ檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フ者トス學業ノ試驗ヲ分ツコト左ノ如シ

一 教義學科本試驗

一 教義學科豫備試驗

一 普通學科試驗

第五條 教義學科本試驗科目ハ教規雜則第廿八條及第二十九條ノ規定ニ據ル

第六條 教義學科豫備試驗科目左ノ如シ

教義學科豫備試驗科目		學科	等級
講義	口述	六國史	三級
筆記	口述	東鑑萬葉集	四級
筆記	口述	日本書紀	五級
筆記	口述	職原抄	六級
筆記	口述	古事記上卷	七級
筆記	口述	古語拾遺	八級
筆記	口述	古語拾遺	九級
筆記	口述	古語拾遺	十級
筆記	口述	古語拾遺	十一級
筆記	口述	古語拾遺	十二級
筆記	口述	古語拾遺	十三級
筆記	口述	古語拾遺	十四級
筆記	口述	古語拾遺	十五級
筆記	口述	古語拾遺	十六級
筆記	口述	古語拾遺	十七級
筆記	口述	古語拾遺	十八級
筆記	口述	古語拾遺	十九級
筆記	口述	古語拾遺	二十級
筆記	口述	古語拾遺	二十一級
筆記	口述	古語拾遺	二十二級
筆記	口述	古語拾遺	二十三級
筆記	口述	古語拾遺	二十四級
筆記	口述	古語拾遺	二十五級
筆記	口述	古語拾遺	二十六級
筆記	口述	古語拾遺	二十七級
筆記	口述	古語拾遺	二十八級
筆記	口述	古語拾遺	二十九級
筆記	口述	古語拾遺	三十級
筆記	口述	古語拾遺	三十一級
筆記	口述	古語拾遺	三十二級
筆記	口述	古語拾遺	三十三級
筆記	口述	古語拾遺	三十四級
筆記	口述	古語拾遺	三十五級
筆記	口述	古語拾遺	三十六級
筆記	口述	古語拾遺	三十七級
筆記	口述	古語拾遺	三十八級
筆記	口述	古語拾遺	三十九級
筆記	口述	古語拾遺	四十級
筆記	口述	古語拾遺	四十一級
筆記	口述	古語拾遺	四十二級
筆記	口述	古語拾遺	四十三級
筆記	口述	古語拾遺	四十四級
筆記	口述	古語拾遺	四十五級
筆記	口述	古語拾遺	四十六級
筆記	口述	古語拾遺	四十七級
筆記	口述	古語拾遺	四十八級
筆記	口述	古語拾遺	四十九級
筆記	口述	古語拾遺	五十級
筆記	口述	古語拾遺	五十一級
筆記	口述	古語拾遺	五十二級
筆記	口述	古語拾遺	五十三級
筆記	口述	古語拾遺	五十四級
筆記	口述	古語拾遺	五十五級
筆記	口述	古語拾遺	五十六級
筆記	口述	古語拾遺	五十七級
筆記	口述	古語拾遺	五十八級
筆記	口述	古語拾遺	五十九級
筆記	口述	古語拾遺	六十級
筆記	口述	古語拾遺	六十一級
筆記	口述	古語拾遺	六十二級
筆記	口述	古語拾遺	六十三級
筆記	口述	古語拾遺	六十四級
筆記	口述	古語拾遺	六十五級
筆記	口述	古語拾遺	六十六級
筆記	口述	古語拾遺	六十七級
筆記	口述	古語拾遺	六十八級
筆記	口述	古語拾遺	六十九級
筆記	口述	古語拾遺	七十級
筆記	口述	古語拾遺	七十一級
筆記	口述	古語拾遺	七十二級
筆記	口述	古語拾遺	七十三級
筆記	口述	古語拾遺	七十四級
筆記	口述	古語拾遺	七十五級
筆記	口述	古語拾遺	七十六級
筆記	口述	古語拾遺	七十七級
筆記	口述	古語拾遺	七十八級
筆記	口述	古語拾遺	七十九級
筆記	口述	古語拾遺	八十級
筆記	口述	古語拾遺	八十一級
筆記	口述	古語拾遺	八十二級
筆記	口述	古語拾遺	八十三級
筆記	口述	古語拾遺	八十四級
筆記	口述	古語拾遺	八十五級
筆記	口述	古語拾遺	八十六級
筆記	口述	古語拾遺	八十七級
筆記	口述	古語拾遺	八十八級
筆記	口述	古語拾遺	八十九級
筆記	口述	古語拾遺	九十級
筆記	口述	古語拾遺	九十一級
筆記	口述	古語拾遺	九十二級
筆記	口述	古語拾遺	九十三級
筆記	口述	古語拾遺	九十四級
筆記	口述	古語拾遺	九十五級
筆記	口述	古語拾遺	九十六級
筆記	口述	古語拾遺	九十七級
筆記	口述	古語拾遺	九十八級
筆記	口述	古語拾遺	九十九級
筆記	口述	古語拾遺	一百級



第七條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ニ合格シタルモノハ再度之ニ就キ試驗スルヲ要セス

一 倫理口述

一 國語雅文  
講讀

一 漢文講讀

一 習字

一 日本及萬國歴史筆答

一 日本及萬國地理筆答

一 數學筆答

一 理科筆答

第八條 新補試驗ハ十三級以下トス

但高等官タリシモノ又ハ高等官タルノ資格ヲ有スルモノハ直チニ六級以下判任官タリシモノ又ハ判任官タルノ資格ヲ有スルモノハ直チニ十級以下ノ試験ヲ行フコトヲ得

第九條 教師三級以下六級以上ノ試験ヲ爲サントスルトキハ檢定委員總長ハ豫メ管長ニ具狀シ許可ヲ得タル后執行スベシ

第十條 昇級試験ハ越級ヲ許サス七級以下ハ現級滿二年三級以下六級以上ハ現級滿三年ヲ經過スルニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

第七級以下十四級以上ニシテ宣教ニ關シ著シキ功勞アリテ檢定上其資格ヲ得タルモノハ特ニ二級ヲ越ヘテ昇級ヲ授與スルヲアルヘシ

第十一條 第二種ノ檢定ハ第十二條乃至第十六條ノ場合ニ限り檢定委員總長及檢定

委員長ハ之ヲ調査シ意見ヲ具シテ管長ニ申告スルモノトス

第十二條 一級二級ノ教師ヲ補命スルハ別ニ試験ニ依ラス管長ノ特擢ニ任ス

但時宜ニ由リ管長ハ三級四級ノ教師ニ諮詢シ其協賛ヲ得テ補命スルヲアルヘシ  
一級教師五名二級教師七名ヲ定員トシ其關員アル場合ノ外之ヲ補任セス

第十三條 尋常中學校卒業生又ハ其學科程度ト同等以上ノ學校卒業生ハ其學校ノ證明書ヲ有スルモノニ限リ普通學科試験ヲ免除スルヲ得

第十四條 教師ニシテ左項ノ一ニ該當スル者ハ一級ヲ進ムルヲ得

一 大教會所又ハ各中小教會所並説教所教幹以上ノ職ヲ承ケ現級滿三年以上ヲ勤務シ其功績顯著ナルモノ

二 現級六級以上ニシテ滿三年以上勤務シ其功績顯著ナル特派巡廻教師

三 教義ニ關スル有益ノ著述ヲ爲シタルモノ

四 現級滿四年以上勤務シ神徳靈驗ヲ表示シ又ハ勤行上功績顯著ナルモノ

第十五條 本教々師タリシモノニシテ再ヒ本教ニ復歸セント欲スルモノハ其原級ニ該當スベキ等級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第十六條 神道他教派ノ教師タリシモノニシテ本教ノ教師タラント欲スルモノハ教義學科及普通學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルヲ得



但此場合ニ於テハ原等級ヨリ一級以下ニ補スルモノトス

第二章 試験

第十七條

試験ハ本廳及教務局並各中教會所ニ於テ隨時之ヲ執行ス

第十八條

前條規定外ノ場所ニ於テ試験ノ必要アルトキハ檢定委員總長及檢定委員長ヨリ其狀ヲ具シ特ニ管長ノ許可ヲ請フベシ

第十九條

本廳ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員總長及檢定委員長之ヲ審按シ其成績ヲ管長ニ申告スヲモノトス

第二十條

教務局及各中教會所ニ於テ執行スル試験ハ檢定委員長並檢定委員ハ受験者ノ口述及講讀行為ニ關スルモノヲ審案シ及得點其他ノ事項ヲ檢定委員總長ニ報告シ其筆答筆記ニ關スルモノハ之ヲ取纏メ直ニ檢定委員總長ニ送附スルモノトス但習字數學學ノ一部若クハ普通學全部ノ成績ハ時宜ニ由リ檢定委員長ヲシテ之ヲ檢定セシムルヲアルベシ

第二十一條

前條ノ場合ニ於テ檢定委員總長ハ檢定委員ト共ニ筆答筆記ヲ審按シ其成績ハ檢定委員長ヨリ報告シタル成點ニ通算シ及ヒ其他ノ事項成績ヲ併セ管長ニ申告スルモノトス

第廿二條 試験問題ハ本廳ニ於テハ檢定委員總長教務局及各中教會所ニ於テハ檢定委員長之ヲ定ム

第廿三條 試験ハ檢定委員三名以上出席スルニアラザレハ之ヲ施行セス

第廿四條 檢定試験ニ關スル一切ノ書類ハ本廳及教務局各中教會所ニ於テ保存スルモノトス

第三章 檢定委員

第廿五條 本廳ニ檢定委員總長一名教務局及中教會所内ニ檢定委員各一名ヲ置キ

本廳教務局中教會所内ニ檢定委員各五名ヲ置ク

但數中教會所ニ一人ノ檢定委員長ヲ置クヲアルベシ

第廿六條 檢定委員總長ハ二級以上ノ教師檢定委員長ハ四級以上ノ教師ニ就キ管長

ノ特撰ヲ以テ之ヲ命ス

第廿七條 檢定委員ハ六級以上ノ教師中ヨリ本廳及教務局ハ委員總長各中教會所ハ

委員長ノ撰擧ニ依リ管長之ヲ命ス

第廿八條 檢定委員總長及檢定委員長ハ管長ノ監督ヲ受ケ其受持部内檢定ニ關スル

事務ヲ處理シ及疑義ヲ判決ス

第廿九條 檢定委員總長ハ六級以上ノ檢定ト本廳内ノ檢定並教務局各中教會所ニ於



テ施行シタル筆答筆記ニ關スル檢定ヲ爲シ檢定委員長ハ一中教會所若クハ數中教會所内ノ筆答筆記ニ係ルモノヲ除クノ外七級以下教師ノ檢定ヲ爲ス  
第三十條 第十八條ニ掲グル規定外ノ場所ニ於テ試験ヲ執行スルトキハ管長ハ檢定委員長以下係リ員ヲ其地方ニ派遣シ檢定試験ヲ行ハシム

第四章 立會人

第卅一條 檢定委員ノ試験ヲ正確ニ施行スルヤ否ヤヲ監督スルカ爲メ管長ハ左ノ立會人ヲシテ檢定所ニ臨席セシム

本廳ニ於テ檢定試験ヲ行フトキ

司教、教務、課長並補教ノ職ニ在ルモノ

四級以上ノ教師

教務局ニ於テ檢定試験ヲ行フトキ

局長並補教ノ職ニ在ルモノ

六級以上ノ教師

各中教會所ニ於テ檢定試験ヲ行フトキ

所長

副所長

參人

貳人

貳人

壹人

壹人

全上

六級以上ノ教師

全上

第卅二條 立會人ハ試験ヲ監督シ試験終了シタルトキハ直ニ試験ノ實況ヲ管長ニ報告スルモノトス

第卅三條 教務局及各中教會所又ハ第十八條ノ場合ニ依リ檢定試験ヲ施行スルトキ管長ニ於テ取締ノ必要ヲ認ムルトキハ司教々務ノ課長若クハ補教ノ職ニ在ルモノヲシテ臨時派遣ヲ命ジテ臨監セシムルヲアルベシ

第五章 懲 誠

第卅四條 檢定委員立會人本廳教務局各中教會所職員及其他教師ニシテ試験問題ヲ受驗者ニ漏洩若クハ密示シタルモノハ其情況ニ依リ職員及教師ニ在リテハ懲誠規約例第十一條ノ重懲誠ヲ以テ處分ス其受驗者ニアリテハ其試験ヲ無効トシ終身受驗セシメサルモノトス

檢定委員不當ノ檢定ヲ爲シ又ハ立會人試験ノ實況ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦全シ

第六章 附 則

第卅五條 教規及其他ノ規則ニ依リ従前教師ノ分限及等級ヲ授與セラレタルモノハ引續キ其數ニ在ルヲ得



但自今補命進退ハ此條規ニ據ル

第卅六條 教令及其他ノ規則ニシテ此條規ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

### 神道教規

#### 第一章 教旨

第一條 惟神ノ大道ヲ擴張シ皇國固有ノ本教ヲ宇内ニ宣揚スルヲ以テ主旨トス

#### 第二章 主神

第二條 宮中所齋ノ神靈ヲ奉戴シ殊ニ天之御中主神高皇產靈神皇產靈神伊邪那岐神伊邪那美神天照大御神須佐之男神皇孫命大國主神天津神八百萬國津神八百萬ノ神ヲ奉祭ス

第三條 教會講社ヲ開設スル時ハ天神地祇ノ中其崇敬スル所ノ神祇ヲ表名合祀ス

#### 第三章 教憲

第四條 敬神愛國ノ旨ヲ體スヘキ事

第五條 天理人道ヲ明ニスヘキ事

第六條 皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムヘキ事

#### 第四章 名稱

第七條 本管ヲ名ケテ神道ト稱ス

第八條 本管一切ノ事務ヲ整理スル所ヲ神道本分局ト稱ス



第九條 本教ヲ宣布スル所ヲ神道本分支院ト稱シ信徒子弟ヲ教育スル所ヲ神道本分支校ト稱シ共ニ本分支局ニ隸屬ス

第十條 本管ノ教職ヲ進退シ及教務一切ヲ統轄スル者之ヲ管長ト稱ス

第十一條 本管ノ教師ヲ教正講義訓導教導職試補ト稱シ教正講義ヲ正權大中少ノ六級ニ訓導ヲ正權ノ二級ニ分ツ

第十二條 本分支局ニ各理事者ヲ置キ本局ニアルナ幹事ト稱シ分支局ニアルヲ某長ト稱ス

但幹事ハ若干員ヲ置キ其長ハ正副ヲ置ク尤時宜ニヨリ長ヲ闕キ或ハ副ヲ闕クコト有ヘシ

第十三條 分局ノ外ニ立チテ布教スルヲ直轄教會ト稱シ其理事者ヲ某教會長ト稱ス

第十四條 支局ノ外ニ立チテ布教スルヲ普通教會ト稱シ其理事者ヲ某教會長ト稱ス

第十五條 本管ノ派師國ノ中外ヲ問ハス派出宣教スルモノヲ宣教使ト稱ス

第五章 職制

第十六條 管長ハ教師ヲ進退黜陟シ有功者ヲ追賞勳獎シ局院校及教會講社ノ廢置分合ヲ許シ其他神道一切ヲ統理シ上下ニ對シテ其責ニ任ス

第十七條 幹事ハ管長ヲ輔ケ諸般ノ事務ヲ幹理シ管長事故アル時ハ其代理タルヲ得

第十八條 分支局長及教會長ハ管長ノ命ヲ受ケ部内ノ教師信徒ヲ管轄シ諸般ノ教務ヲ整理ス

第十九條 屬員ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ局院校ノ事務ニ從事ス

但分支局院校及教會ノ屬員ハ其長ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ從事ス

第二十條 大教正以下教導職試補以上ノ者ハ神事祈禱神占禁厭宣教祝誕冠婚葬儀靈祭ノ諸式ヲ行ヒ教會ヲ開設シ講社ヲ結收シ信徒ニ神符ヲ授與シ山海ノ遺利ヲ興シ國家ノ公益ヲ圖ル事等ニ從事ス

第六章 教區

第二十一條 本管ノ教區ヲ分ツコト左ノ如シ

一 武藏	相模	安房	上總	下總	常陸
二 伊豆	駿河	遠江	參河	尾張	美濃
三 飛騨	伊賀	伊勢	志摩	攝津	紀伊
四 丹波	丹後	河内	和泉	攝津	紀伊
若狹	越前	加賀	近江	越中	越後



五	佐	播	磨	伯	長	日	七
美	出	淡	大	岩	羽	後	後
作	雲	路	隅	代	後		
備	石	阿	肥	陸			
前	見	波	前	前			
備	隱	讚	肥	陸			
中	岐	岐	後	中			
備	安	伊	筑	陸			
後	藝	豫	前	奧			
因	周	土	筑	羽			
幡	防	佐	後	前			

第七章 教場

第二十二條 局院校及祠宇教會所說教所并出張所等ノ新設ハ地方官衙ノ許可ヲ得其  
 移轉分合ハ届出ツヘク他管轄地ヘ移轉分合スルハ更ニ該官衙ノ准允ヲ得ヘシ  
 第二十三條 本教ヲ宣布スルハ專ラ本分支院並教會所說教所ニ於テストイヘ信徒  
 ノ請求ニヨリテハ一時神社民家ニ於テ執行スルコトアルヘシ  
 第八章 服制  
 第二十四條 教師ノ正服ハ齋服狩衣淨衣直垂トス  
 但有位叙爵者ハ此限ニ非ス

第九章 撰舉

第二十五條 管長ハ本管教師一般ノ公撰ニヨル  
 第二十六條 幹事ヲ分チテ二トス一ヲ分局及直轄教會長ノ公撰員トシ一ヲ管長ノ特  
 命員トス  
 但在職期限ハ四ケ年トス  
 第二十七條 分支局長及教會長ハ該部下教師ノ公撰ニヨル  
 但分支局長ハ在職期限四ケ年トス  
 第二十八條 教師ハ試験又ハ管長ノ特撰ヲ以テ補ス  
 第二十九條 公權停止以上ノ處分ヲ受ケタル者ハ教師ニ補スルヲ許サス  
 但赦免後年限ヲ經過シ悔悟ノ實證アル者ハ此限ニ非ス  
 第十章 校  
 第二十條 學科ヲ分チテ正科兼科傍科トス  
 第二十一條 正科ハ本教ノ典籍ヲ講明ス  
 第二十二條 兼科ハ漢學梵學洋學等トス  
 第二十三條 傍科ハ禮式音樂ヲ講習ス  
 第十一章 試驗



百六十一  
第二十四條 試驗ハ本局ニ於テハ幹事二名以上分局並直轄教會所ニ於テハ長副二名以上立會ノ上施行ス

第十二章 教會

第三十五條 教憲三條ノ大旨ハ終身之ヲ謹守スヘシ

第三十六條 倫常ノ道ヲ守リ各自其實行ヲ竭スヘシ

第三十七條 凡ソ同胞ノ親ミヲ爲シ吉凶禍福ヲ慶吊シ疾病患難ヲ相救フヘシ

第三十八條 異端邪說ヲ信仰スヘカラス

第三十九條 會中ノ子弟其父兄ノ教誨ヲ受ケス言行道ニ背ク者アラハ會中ニテ規戒セシメ尙服從セサル者ハ會長親シク懇諭ヲ加フヘシ

第四十條 會中申合ヲ以テ適宜ニ出金シ宣教會費等ニ充ツヘシ  
第十三章 法 例

第四十一條 本管ニ於テ懲戒スル法ヲ分チテ三種トス

- 一 重懲戒
- 二 輕懲戒
- 三 諭戒

第四十二條 重懲戒ハ本局ハ幹事其他ハ分局長直轄教會長ヨリ管長ヘ具申ス

第四十三條 輕懲戒ハ本局ハ幹事其他ハ分局長直轄教會長之ヲ決行シ後管長ニ具申ス

第四十四條 諭戒ハ本局ハ幹事其他ハ分局長教會長之ヲ處置ス

第四十五條 重懲戒輕懲戒トモ懲戒スヘキ者ハ其行跡實證ヲ得幹事及分局直轄教會

ニ於テ審査ヲ遂ケ其手續證據書類ニ意見書ヲ添ヘ幹事及分局長直轄教會長若クハ副長並係主任者總テ三名以上連署シ管長ニ具申ス

但本文ノ手續ヲ爲サハルモノハ其効ヲ有セス

第四十六條 懲戒ニ依ルニ非スシテ免職スヘキ者ハ幹事及分局長直轄教會長ヨリ旨

ヲ諭シ本人ヨリ免職願ヲ出サシム若シ其旨ニ違ハサル者ハ直ニ免職ス

第四十七條 懲戒ニ依リ免職スル者ハ滿二ケ年降級スル者ハ滿一ケ年半經過シ改良

ノ實効アルニ非サレハ再補昇級スルヲ許サス

第四十八條 謹慎ヲ命シタル者ハ滿一ケ年間昇級スルヲ許サス

第十四章 懲 例

第四十九條 重懲戒ヲ分テ免職降級トス

第五十條 輕懲戒ヲ別テ謹慎譴誡トス

第五十一條 重懲戒免職ニ係ル者神官ナルトキハ其所轄管廳ヘ其事由ヲ申達ス

第五十二條 謹慎ハ五日以上二十五日以下解除ヲ修メシム



第五十三條

職誠ハ其事由ヲ示シ職誠書ヲ付シテ將來ヲ誠シム

第五十四條

職誠ハ過失ヲ指摘シ悔悟ノ謝狀ヲ出サシム

第五十五條

左ノ概目ニ觸ル、者ヲ重懲誠トシ其情狀ヲ酌量シ其重ヲ免職其輕ヲ降級トス

第十五章 違 例

- 一 管長ノ命令ヲ奉セザル者
- 二 本管教規ヲ遵守セザル者
- 三 本分局及諸教會講社ノ規律ニ違反スル者
- 四 妄リニ吉凶禍福ヲ説キ及祈禱神位靈應ニ託シ人ヲ靈惑シ私利ヲ射ル者
- 五 妄リニ神符神像ヲ授ケ醫藥ヲ妨グル者
- 六 竊ニ邪教ヲ信スル者
- 七 本分局院校及教會講社ノ名稱ヲ濫用スル者
- 八 著キ不品行ヲ以テ譏ヲ來シ教師ノ体面ヲ汚ス者
- 九 三度謹慎ヲ受ケテ猶素行修マラザル者
- 十 教費金納期ヲ怠ル者
- 十一 其部内當器ノ教職ヲ故意ニ昇級ノ具申ヲセザル者

十二 公權停止以上ノ處分ヲ受タル者

第五十六條 左ノ概目ニ觸ル、者其重ヲ謹慎其輕ヲ職誠トス

- 一 分支局長及教會長ノ命令ニ違ハサル者
  - 二 疎虞懈怠ニシテ本分支局及教會講社ノ規律ニ違フ者
  - 三 管長ノ許可ヲ得スシテ教規ニ擬似スル者ヲ施行スル首座ノ者
  - 四 凡ソ違書ヲ受ケテ時日ヲ稽緩差失シ事ニ害アル者
  - 五 約束ヨリ成立タル臨時教費割ヲ遲納スル者
  - 六 猥リニ訴訟ヲ爲ス者
  - 七 認可ヲ得スシテ妄リニ所屬教區ヲ變換スル者
  - 八 詐術ヲ爲ス者
  - 九 服制ヲ紊ル者
  - 十 三度職誠ヲ受ケテ猶悔悟セザル者
- 第五十七條 左ノ諸件ニ觸ル、者ハ職誠ス
- 一 講社ヲ口實トシテ本分局院ノ義務ヲ闕ク者
  - 二 豫定ノ會場ヘ開レナク出頭セザル者
  - 三 招喚狀ヲ得テ謂レナク出頭セザル者



四 遊戯ノ興行ヲ爲シ利ヲ圖ル者  
第五十八條 凡ソ徳義上ニ於テ責ムヘキ者ハ此違例概目ニ比例ス

### 神道教師檢定條規

#### 第一章 檢定

第一條 神道教師ノ分限及等級ハ檢定委員ノ檢定ニ合格スルモノニ非レハ之ヲ授與セス

第二條 左ノ項目ニ觸ル、者ハ教師タルコトヲ得ス

- 一 品行修テサル者
- 二 癡癲 白痴 瘖啞ノ者
- 三 男子ハ二十年女子ハ二十五年未滿ノ者
- 四 重罪及定役ニ服スヘキ輕罪ニ處セラレタル者
- 五 家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケタル者又復權後若クハ辨償ヲ終ヘテ一ケ年ヲ經過セサル者
- 六 本管又ハ他教派ニ於テ懲誡等ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ滿二ケ年ヲ經過シ悔悟ノ實証アラサル者

第三條 教師ノ檢定ヲ分テ左ノ二種トス  
甲種 試驗



乙種 認定

第二章 試驗

第四條 甲種檢定ハ學業ノ試驗ヲ行フモノトシ是ヲ分テ左ノ二種トス

教義學科

普通學科

第五條 教義學科試驗科目左ノ如シ

一 種	神道要旨 筆記 六國史 口述 萬葉集 筆記 延喜式 口述 作 文 宣命 口述 公文 口述	二 種	神道要旨 筆記 日本紀 口述 高橋氏文 口述 令 誥 解 口述 作 文 宣命 口述 公文 口述	三 種	神道要旨 筆記 古事記 口述 續紀宣命 口述 職原抄 口述 作 文 宣命 口述 公文 口述	四 種	神道要旨 筆記 日本紀 口述 神代卷 口述 祝詞式 筆記 禁秘抄 口述 神事選 口述 儀式 口述	五 種	神道要旨 筆記 古事記上卷 口述 每朝神拜式 口述 作 文 祝詞 口述 神事選 口述 儀式 口述	六 種	神道要旨 筆記 古語拾遺 口述 土佐日記 口述 作 文 祝詞 口述 神事選 口述 儀式 口述	七 種	神道要旨 筆記 神德略述 口述 作 文 祝詞 口述 神事選 口述 儀式 口述
-----	---	-----	--	-----	--	-----	--	-----	---	-----	---	-----	--

第六條 普通學科試驗科目左ノ如シ

但此科目ヲ及第セシ者ハ再度ノ試驗ヲ要セス

一 修身 口述

一 日本歷史 筆記

一 萬國地理 筆記

一 人身生理 口述

一 萬國歷史 筆記

一 算術 筆記

一 漢文 口述

一 日本地理 筆記

第七條 試驗ノ種目ヲ分テ七種トシ二種以上ヲ高等トシ三種以下ヲ尋常トス

第八條 高等試驗ハ毎年二期四月神道本局ニ於テ執行シ尋常試驗ハ毎年四期八月十一月

神道本分局直轄教會ニ於テ執行スルモノトス

但時宜ニ依リ臨時執行スルヲアルヘシ

第九條 地方ニ於テ高等試驗ヲ請フモノアル時ハ管長ハ高等檢定委員ヲ受験者所轄

ノ神道分局直轄教會ニ派出セシノ試驗ヲ執行スルヲアルヘシ

但試驗時期ハ前條ノ例ニ依ル

第十條 試驗方法ハ高等尋常トモ通シテ左ノ如クス

一 項 問題ノ筆記ハ一書ニ付一節口述ハ一書ニ付三節トス

二 項 筆記ハ一節二時間作文ハ一題三時間トス

第十一條 試驗ノ點法左ノ如シ

一 項 各科百點ヲ以テ滿點トス

二 項 各科得點ヲ合算シ平均六十點以上ヲ及第トス



三項 平均六十點ヲ得ルモ一科若シ四十點ニ達セザレハ落第トス  
 四項 平均八十點以上ヲ甲點トシ以下ヲ乙點トス  
 第十二條 第十一條第四項ノ得點ニ依リ職級ヲ定ムル左ノ如シ  
 但七種ノ試験ハ此限ニ非ス

種目	一種	二種	三種	四種	五種	六種	七種
甲點	三級	五級	七級	九級	十一級	十三級	
乙點	四級	六級	八級	十級	十二級	十四級	教導職試補

第十三條 試験ニ落第セシ者高等ハ滿一ケ年尋常ハ滿六ケ月ヲ經過セザレハ再試験ヲ請フヲ許サス  
 第十四條 新補試験ハ十三級以下トス尤高等官タリシ者又ハ高等官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ六級以下判任官タリシ者又ハ判任官タルノ資格ヲ有スル者ハ直ニ十級以下ノ試験ヲ受クルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テハ六級ノ教師ニ限り檢定委員ハ豫シメ管長ノ許可ヲ得テ試験ヲ執行スルコトヲ要ス  
 但認定ハ第三章第十八條ノ規定ニ據ル

第十五條 昇級試験ハ現職滿二ケ年以上ノ者ニ非レハ之ヲ許サス  
 第十六條 昇級試験ハ越級ヲ許サス但特別ノ事情アル者ニ限り管長ハ檢定長檢定委員長及檢定委員ノ銜ヲ經テ特ニ越級試験ヲ受クルヲ許スルアルヘシ此場合ト雖モ十二級九級及六級ヲ超越スルヲ許サス

第三章 認定

第十七條 正權大教正ハ試験ヲ要セス管長之ヲ特命ス  
 但大教正七名權大教正二十名ヲ超過スルヲ得ス  
 第十八條 認定ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限り教義學科普通學科ノ内試験ノ一部ヲ免除シ甲部ハ七級以下ニ乙部ハ八級以下ニ丙部ハ十三級以下ノ教師ニ補命スルヲ得  
 但認定時期ハ第二章第八條ノ例ニ依ル

甲部

- 一 項 神宮權禰宜以上官國幣社正權宮司ノ職ニアリシ者
- 二 項 神宮皇學館本科ヲ卒業セシ者及皇典講究所學正タル者

乙部

以上教義學科試験ヲ免除ス



一 項 高等官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
以上普通學科試驗ヲ免除ス

丙 部

- 一 項 神宮宮掌以上官國幣社主典以上ノ職ニ在リシ者
- 二 項 神宮皇學館專科卒業者及皇典講究所五等司業以上ノ者
- 三 項 滿十年以上府縣社以下ノ神職ニ在リシ者
- 四 項 教義ニ關スル著述ヲ爲シ學術上顯著ナル功績アル者
- 五 項 十年以上本管ノ教徒ニシテ布教ニ熱心シ顯著ナル功績アル者  
以上教義學科試驗ヲ免除ス
- 六 項 尋常師範學校尋常中學校以上公立學校ヲ卒業セシ者
- 七 項 判任官タリシ者及其資格ヲ有スル者  
以上普通學科試驗ヲ免除ス

第十九條 本管教師タリシ者ニシテ復職ヲ請ヒ又明治十七年八月十一日以前教導職  
タリシ者及他教派ノ教師タリシ者ニシテ其ニ本管教師ヲ志願スル者ハ試驗ノ一部  
又ハ全部ヲ免除シ原職級ニ相當スル等級以下ニ補命スルヲ得

第二十條 試補以上ノ教師ニ就職シ左表ノ年限ヲ經過シ教養上功勞アル者ハ其成績

ヲ認定シ一級ヲ進ムルヲ得猶神道本分局及直轄教會ノ理事者ニシテ功績尤著ナル者ハ認定ノ上一年ヲ短縮スルコトアルヘシ

但七級ヨリ六級ニ十級ヨリ九級ニ十三級ヨリ十二級ニ昇級スル場合ハ必ず試験ヲ要ス

年 限	滿四年	滿四年	滿四年	滿四年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年	滿三年				
職 級	權中教正	少教正	權少教正	大講義權	大講義	中講義	中講義	少講義	少講義	講義	訓導	權訓導	教導職	試補

第四章 檢定長及檢定委員

- 第二十一條 檢定ヲ行フ爲メ檢定長及ヒ檢定委員長檢定委員ヲ置ク
- 第二十二條 左ノ資格アル者ヲ以テ檢定長及ヒ高等檢定委員トス
- 一 項 博士學士ノ稱號アリテ現職六級以上ノ者
  - 二 項 神道本局顧問ノ任ニ在ル者
  - 三 項 本管教師就職十ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者
  - 四 項 明治十七年八月十一日以前六級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者
  - 五 項 高等學校高等師範學校以上ノ公立學校教授タリシ者ニシテ現職六級以上ノ者
- 第二十三條 左ノ資格アル者ヲ以テ尋常檢定委員トス



一 項 神道分局直轄教會顧問ノ任ニ在ル者  
 二 項 本管教師就職五ヶ年以上ニシテ現職六級以上ノ者  
 三 項 明治十七年八月十一日以前八級以上ノ教導職ニシテ現職六級以上ノ者  
 第二十四條 檢定長ハ正副二名トシ高等檢定委員資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス  
 第二十五條 檢定委員長及ヒ檢定委員ハ高等尋常共ニ第二十二條第二十三條各項ノ資格者中ヨリ管長之ヲ特命ス但定員ナシ  
 第二十六條 試驗臨場檢定委員ハ高等尋常共ニ委員長一名委員三名トス  
 但委員長欠席ノ節ハ委員首座ノ者ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十七條 高等檢定委員長及尋常檢定委員長ハ檢定委員ト共ニ受験者ノ筆記以外ニ關スル者ヲ審査シ其成點ヲ檢定長ニ報告シ其筆記ニ關スルモノハ其儘檢定長ニ廻附スルモノトス  
 但算術ハ時宜ニヨリ檢定委員長ヲシテ審査セシムル事ヲ得  
 第二十八條 檢定長ハ高等及尋常檢定委員長ヨリ廻附シタル筆記書類ヲ審査シ其成點ヲ高等及尋常檢定委員長ヨリ報告シタル成點ト合算シ其成績ヲ管長ニ具申ス  
 第二十九條 檢定長及高等檢定委員ハ高等ノ認定ヲ爲シ檢定長及尋常檢定委員ハ尋常ノ認定ヲ爲スモノトス

第三十條 檢定委員ハ檢定ニ關スル諸般ノ一ヲ執行ス  
 第三十一條 檢定長及檢定委員長檢定委員ノ任期ハ高等尋常共ニ四ヶ年トス但再任スルヲ得  
 第五章 試驗立會人  
 第三十二條 試驗立會人ハ高等尋常共ニ各一名トス  
 第三十三條 試驗立會人ハ試驗場ニ臨ミ試驗終了セハ其正否ヲ管長ニ申告ス  
 第三十四條 高等試驗立會人ハ現職六級以上ノ者尋常試驗立會人ハ現職八級以上ノ者トス  
 第三十五條 高等尋常共ニ試驗立會人ハ前條ノ資格者ニ就キ其都度管長之ヲ特命ス  
 第六章 懲 戒  
 第三十六條 檢定委員ニシテ試験問題ヲ受験者ニ漏洩シ又ハ試験場外ニ於テ試験ニ關スル事務ヲ取扱或ハ試験點査ヲ口外シタル者ハ輕キハ委員ノ資格ヲ剝奪シ重キハ教規ニ照シ免職若クハ降級ス  
 第三十七條 試驗立會人ニシテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル時ハ前條ノ例ニ依ル  
 第三十八條 第三十六條ノ場合ニ於テハ試験ヲ無効トシ其受験者ハ猶十ヶ年間試験ヲ請フヲ許サス



第七章 附 則

第三十九條 試験認定ニ關スル書類ハ總テ神道本局ニ保存ス  
第四十條 教規ニ依リ既ニ教師分限及等級ヲ授與シタル者ト雖モ自今昇級ノ場合ニ於テハ本條規ニ依ル  
第四十一條 檢定ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

大成教々規

當教々規今般別冊之通改正仕度候間至急御認可被成下度此段奉願候也

明治二十八年十二月十六日

大成教管長從四位 中山 信 徵 

内務大臣子爵野村 靖殿

割 印

書面願之趣認可ス

明治廿八年十二月廿七日

内務大臣子爵野村 靖 



大成教規目次

第十四章	第十三章	第十二章	第十一章	第十章	第九章	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章
懲戒例	賞譽例	會計	會議	教會講社	布教	教區	特待員	教師	職員及職制	管長	祭式	名稱及位置	教旨
至第六十五條	自第六十三條	至第六十二條	自第六十一條	至第六十條	自第五十九條	至第五十八條	自第五十七條	至第五十六條	自第五十五條	至第五十四條	自第五十三條	至第五十二條	自第五十一條



第十五章 附則  
以上通計 十五章 七十七條

自第七十六條

百七十八

### 大成教規

#### 第一章 教旨

- 第一條 本教ハ惟神ノ大道ヲ宣揚スルヲ以テ本旨トス其大綱左ノ如シ
- 一 天神地祇ヲ崇奉シ賢所及御歷代ノ皇靈ヲ遙拜ス
  - 二 天壤無窮ノ神勅ヲ主旨トシ國体ヲ恢張ス
  - 三 天叙ノ尋倫ヲ章明ス
  - 四 神事ハ歷朝ノ儀範ニ則テ之ヲ執行ス
  - 五 教旨ヲ宣布シ人心ヲ感化ス
  - 六 顯幽ヲ一貫シ死生ヲ洞明ス
  - 七 修道眞法ヲ修シ安心立命ノ基ヲ定ム
- 第二章 名稱及位置
- 第二條 本教ハ大成教ト稱ス
- 第三條 本教一切ノ事務ヲ處理スル所ヲ教務廳ト稱シ東京ニ置ク
- 第三章 祭式
- 第四條 神祭及婚姻葬儀等ハ凡テ本教所定ノ式ニ依テ之ヲ執行ス
- 第五條 本教ハ左ニ掲ル式日ニ祭典或ハ遙拜式ヲ執行ス

百七十九



但信徒ノ外衆庶ノ參拜ヲ禁ス

- 新年祭 一月一日
- 元始祭 一月三日
- 孝明天皇祭 一月三十日
- 祈年祭 二月四日
- 紀元節 二月十一日
- 春季皇靈祭 三月春分ノ日
- 神武天皇祭 四月三日
- 大祓 六月二十日
- 秋季皇靈祭 九月秋分ノ日
- 神嘗祭 十月十七日
- 天長節 十一月三日
- 新嘗祭 十一月廿三日
- 大祓 十二月卅一日
- 本教慰靈祭 五月廿二日
- 本教創立祭 九月十二日

一月次祭

十二日、廿二日

第六條 教會所ニ於テハ都テ毎朝神拜ヲ爲シ特ニ賢所ヲ遙拜ス

第四章 管長

第七條 管長ハ左ノ資格ノ一ヲ備フル者之ヲ繼承ス

- 一 道統相傳信徒歸向ノ者
- 二 學識德望著ルシキ者
- 三 教師總統ノ任ニ堪フル者

第八條 管長退職セントスルトキハ後任者ヲ特選シテ内務大臣ノ認可ヲ請フベシ

第九條 管長ノ死亡其他ノ事故ニ由リ前條ノ手續ヲ爲ス事能ハサルトキハ贊襄顧問ノ合議ニ由リ管長ヲ選定シテ認可ヲ請フヘシ

第十條 管長適任ノ候補者ナキトキハ在京六級以上教師ノ投票ヲ以テ顧問ノ中ヨリ事務取扱二名ヲ選定シ内務大臣ノ認可ヲ經テ管長ノ職務ヲ攝行セシムルモノトス此場合ニ於テ事務取扱ハ成ルヘク速ニ管長ヲ選定シテ認可ヲ請フヘシ

第十一條 管長ハ當然大教正タルヘシ

第十二條 管長ハ教規ニ依リ教務一切ヲ綜理シ政府ニ對シ其責ニ任ス

第十三條 管長ハ會議ヲ開テ教務ヲ諮問ス



第十四條 管長ハ法令及教規ノ範圍内ニ於テ教令ヲ發ス

但教規ノ補則トナルヘキモノハ内務大臣ノ認可ヲ請フモノトス

第十五條 管長ハ教務廳ニ關スル事務細則ヲ制定シ職員ヲ任免ス

但本教規ニ特例ヲ掲クル者ハ各其條項ニ依ル

第十六條 管長ハ教規ノ範圍内ニ於テ教師ノ分限ヲ定メ及其任免進退ヲ爲ス

第十七條 管長ハ教會講社ノ設立其名稱規約及廢置分合ヲ承認シ教會長及講社長ヲ

任免ス

第十八條 管長ハ教規ニ依リ有功者ヲ賞譽シ違例者ヲ懲戒ス

第十九條 管長ハ教旨ヲ傳教シ教書ヲ述作シ又教師ノ著作シタル教書ヲ檢定ス

第五章 職員及職制

第二十條 本教ニ左ノ職員ヲ置ク

贊襄 無定員

顧問 三名以内

監督 一教區一名若クハ二名

布教師 五名以内

第二十一條 贊襄ハ位置名望アリテ本教ヲ翼贊スル者ノ中ヨリ管長特ニ之ヲ委囑ス

贊襄選定ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 贊襄ハ管長ノ諮問ニ應シ及本教規ニ依リ重要ノ事件ニ參與ス

第二十三條 顧問ハ二級以上ノ教師ニシテ學識徳望著シキ者ノ中ヨリ贊襄ノ諮問ヲ

經テ管長之ヲ選定ス

第二十四條 顧問ハ管長ノ下問ニ應シ且教義及教務ニ付其意見ヲ管長ニ獻替ス

第二十五條 監督ハ第八章各教區内六級以上ノ教師中本教ニ功勞アル者又ハ名望著

シキ者ノ中ヨリ管長ノ特選ヲ以テ之ヲ命ス

第二十六條 監督ハ管長ノ命ヲ受ケテ教區内ノ教會講社及教師ヲ監督シ兼テ意見ヲ

管長ニ具申ス

第二十七條 布教使ハ六級以上ノ教師ニシテ布教ニ練達セル者ノ中ヨリ管長之ヲ命

ス

第二十八條 布教使ハ管長ノ命ヲ受ケテ地方ヲ巡廻シ教會講社及説教所ニ出張シ布教

傳道ヲ爲シ兼テ地方ノ教務ヲ視察スルモノトス

但巡廻區域ハ管長之ヲ定ム

第二十九條 教務廳ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌ノ事務ハ別ニ之ヲ定ム

教務課